

2016（平成28）年度

自己点検・評価報告書



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

2016（平成28）年度自己点検・評価報告書について

2016年度自己点検・評価委員会
委員長 佐藤和人

2016年度の日本女子大学自己点検・評価報告書を作成いたしましたので、ここに公表いたします。

2016年度の自己点検・評価委員会活動として特筆すべきは、2015年度から議論を重ねてきた公益財団法人大学基準協会による第2期大学評価（認証評価）結果への対応の中でも、「基準10 内部質保証」に関し、「日本女子大学自己点検・評価規則」の改正及び点検・評価体制の整備を行い、改善報告書を提出したことにあります。内部質保証を含む努力課題及び改善勧告で指摘されていた点について真摯に改善に取り組み、この度、大学基準協会から報告書の検討結果の回答をいただき、意欲的に改善に取り組んでいることが認められたことをご報告いたします。本学における各部署の内部質保証が稼働するシステムにつきましては、今後も継続的に点検を行い、大学の教育マネジメントの推進に努めてまいります。

また、今年度は、エビデンスに基づく教育改善の実践をめざして「教学IR コモンズ」での学修行動調査（対象：学部1・3年次学生）を開始いたしました。2016年度は、お茶の水女子大学、岡山大学、津田塾大学・帝京大学・東京女子大学・奈良女子大学・本学の7大学が参加し、合計8,805名の学生の回答から、大学の教学にかかわるIRの比較分析を行いました。これにより、求めるべき学修行動の実態の把握と大学教育の改善に向けた指針を得ることを目指して参ります。

上記取り組みをはじめとして、本学では2021年度のキャンパス統合に向け、全学を挙げた努力を重ねております。各部署におけるそれぞれの取組みを大学全体の進む流れに位置づけ、矛盾なくかつ優先順位の判断もしつつ、同時に中・長期計画を確実に実行することは容易ではありません。学内の構成員におかれましては、本報告書をしっかりお読みいただき、他部署における取組みの課題、及び解決に向けた動きを知るとともに、大学全体の統一的な努力の全体像を理解、把握していただきたいと思っております。また、本報告書をご覧いただく学外の皆様には、本学の取り組みについてご理解いただく一端となれば幸いです。

大学基準協会による本学の次期認証評価受審は2018－2019年度です。改定された『大学基準』及びその解説も公表され、大学基準の新しい構成図では、内部質保証はより重要な項目になります。また、FD（ファカルティ・ディベロップメント）をも含む広い概念としてのSD（スタッフ・ディベロップメント）が提唱されています。翻って基準体系図を見てみれば、「大学基準」を頂点とする基準体系に基づき、その他の基準相互の調整を図るとされつつも、任意の分野別カテゴリーや専門職学位課程基準など各種基準の最終的な整合にはまだ時間がかかるという現実もあります。しかし、こうした大学評価を取り巻く社会情勢を俯瞰しつつ、法的に規定された認証評価の受審を丁寧にこなし、それを本学の研究教育のより良い明日に結び付けていく努力が重要であると考えています。

大学の研究と教育が不断に改善され続けるための仕組みを稼働させ、日本女子大学における教育マネジメントを健全に行えるよう、今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。

目 次

1. 2016 (平成28) 年度 各種方針	1
2. 2016 (平成28) 年度 到達目標	3
3. 2016 (平成28) 年度自己点検評価	
I 大学・大学院	
・大学全体	16
・家政学部	20
・家政学部通信教育課程	22
・文学部	24
・人間社会学部	26
・理学部	28
・大学院全体	30
・家政学研究科	31
・人間生活学研究科	32
・文学研究科	33
・人間社会研究科	35
・理学研究科	37
II 事務局	
・学長室	40
・総務部	41
・財務部	47
・管理部	49
・学務部	52
・学生生活部	57
・通信教育・生涯学習事務局	60
・学園活動評価・改革計画室	63
III 附属機関	
・図書館	67
・成瀬記念館	70
・総合研究所	71
・現代女性キャリア研究所	72
・教職教育開発センター	73
・生涯学習センター・リカレント課程	75
・メディアセンター	77
・カウンセリングセンター	79
・保健管理センター	81
・さくらナースリー	83

2016（平成28）年度 各種方針

1. 教育研究組織の編制原理

- (1) 建学の精神、教育理念、教育方針を堅持しつつ、女子の高等教育機関として時代や社会の要請に応え得る総合大学として、家政学部、文学部、人間社会学部及び理学部を置き、大学院には、家政学研究科、文学研究科、人間生活学研究科、人間社会研究科及び理学研究科を置く。
- (2) 大学の門戸を社会に広く開放し、女子の高等教育機関として専門的知識と技能を授けることを目的として、通信教育課程を置く。
- (3) 建学の精神、教育理念に基づく女子教育の成果を、広く社会に発信し貢献するために成瀬記念館、現代女性キャリア研究所、教職教育開発センターを配置する。
- (4) 大学の研究者・附属校園の教員による研究の拠点として、総合研究所を置く。
- (5) 本学の教育機能を地域に開放し、地域との連携、生涯教育への貢献を旨とした生涯学習センターを置く。

2. 大学の求める教員像及び教員組織の編制方針

日本女子大学の教員像

- (1) 本学の建学の精神、教育理念、教育方針を理解し、教育研究に取り組む意欲のある者。
- (2) 平和的な国家及び社会の形成者育成のために、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究する者。
- (3) 常に教育研究水準の向上につとめ、教育研究基盤の充実と組織運営の発展に寄与する者。

教員組織の編制方針

- (1) 大学・学部・学科・研究科・専攻の教育の目的を達成し、学位授与方針に沿ったカリキュラムを実現するための適正な教員を配置する。
- (2) 教員の採用は、公正かつ適切な基準と手続きに従い、年齢構成、性別構成等のバランスに配慮した編制を行う。
- (3) 外国人教員の採用や客員、特任などの任期制教員採用により、国際的、多面的な教員組織を編制する。

大学の教育目標

大学の教育目標

平和的な国家及び社会の形成者育成のために、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、その応用能力の展開をはかるとともに、人格の完成につとめることを目的とする。（学則第1条）

大学院の教育目標

高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、精深な学識と研究能力を養うことによって、広く文化の向上進展に寄与することを目的とする。（大学院学則第1条）

3. 教育目標（学部・学科、研究科・専攻）

4. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

5. 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

6. 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）

7. 学生の支援に関する方針

- (1) 学生の自主性を尊重しながら、精神的に自立し、自ら考え、判断する力と他者をいたわる心を養うための支援を行う。
- (2) 多様な文化や価値観を持った人々を尊重し、国際社会の一員として共生できるよう支援体制を整える。
- (3) 学生の自己実現を助け、その人間形成に寄与するため、生活支援に関係する部署の連携、支援体制を強化・整備し、教育・研究環境の安全確保に努める。

◎各支援に対する方針

学修支援：学生の学修状況を把握し、学生の状況に応じた学修支援を行う。また、障がいのある学生への支援体制を整備する。

生活支援：心の健康保持・増進、身体の健康保持・増進、安全・衛生の側面から学生が自ら行動できる力を養うための支援を行う。特に、学園全体で健康教育に対する連携や実施等を推進する。また、必要に応じて経済的支援を行う。

進路支援：多様化する社会に適応し、リーダーシップ・独創性・協心力を発揮して世界で活躍できる力を身につけるための支援を行う。

留学支援：国際人としての深く広い教養を身につけるための学習環境・制度等の整備充実を図り、グローバル社会で活躍する力を養うための支援を行う。

8. 教育研究環境の整備に関する方針

- (1) Vision120に向けた教育改革・教育研究環境の充実を実現するため、キャンパスの再整備を行い、学修環境や教育研究環境の整備充実を図る。
- (2) 学生に快適な大学生活の場を提供できるよう、安全と健康に配慮したキャンパス・アメニティの充実に努める。
- (3) 地球環境に優しいキャンパス作りを目指し、省エネルギー化や環境配慮への取り組みを推進するとともに次世代への環境教育を行う。
- (4) 図書館は、学修・教育・研究に必要な学術情報資料を質・量ともに備え、施設の整備、サービスの充実をはかり利用を促進する。図書館システムをより良く機能させ、国立情報学研究所への参加等を通して、学術情報の相互提供を実施する。
- (5) 研究倫理に対する取組として、研究者の行動規範と研究費の適切な使用、それぞれにかかる環境整備に努める。

9. 社会連携・社会貢献に関する方針

- (1) 研究成果を社会に還元し、物的・人的資源の活用による地域等との連携・交流を積極的に推進する。
- (2) 社会人に高等教育を受ける機会を提供することにより、社会に貢献する。
- (3) 国際平和や人間尊重の一端として、女子教育の国際連携を支援する。
- (4) 学生主体の地域交流を推進する中で、学生が学内外で学んだ成果を社会に還元する。

10. 管理運営方針

- (1) 学園をめぐる内外の情勢変化をふまえ、建学の精神に基づいた教育・研究活動の推進のための課題を整理し、課題解決に向けて柔軟かつ迅速に対応できる管理運営体制を置く。
- (2) 質の高い教育・研究活動を永続的に実施するため、中・長期の財政計画に基づき健全な経営基盤を確立する。

11. 大学の内部質保証に関する方針

- (1) 教育研究上の目的及び社会的使命を達成するために、教育研究水準の向上を図り、教育研究活動の状況について、不断の自己点検・評価を行う。
- (2) 自らの教育研究活動について、自ら強みと弱みを客観的に把握し、教育研究の改善に取り組む。

2016（平成28）年度到達目標

（2016（平成28）年度第1回自己点検・評価委員会（2016（平成28）年5月17日）承認）

I 大学

1. 大学全体

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	教養科目・展開科目等にアクティブ・ラーニングを取り入れた演習科目を担当教員・受講者の協力を得て、検証する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ⑤教育方法の改善（アクティブ・ラーニングなど新しい授業方法に対するサポート体制をつくる）
2	基礎外国語教育の一層の充実を図り、また基礎外国語全体としてeポートフォリオの試行的導入を実施する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ⑤教育方法の改善（アクティブ・ラーニングなど新しい授業方法に対するサポート体制をつくる）
3	学校教育法施行規則の一部改正に対応した3ポリシーの見直しを計画し、平成29年3月までに新たな3ポリシーを策定・公表する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開
4	各学科が実施した、GPA制度を活用した成績不振者の個別指導の結果を分析・検証する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実 ①学生が自発的に学習する支援体制の検討
5	キャンパス一体化後の新教育カリキュラムについて検討を継続する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開
6	学部・学科を越えた教育上の連携について継続検討し、実施した科目については、実施結果を検証する。	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (2) 四つの科学系統（人間生活科学系・人文科学系・社会科学系・自然科学系）の発展
7	自校教育内容の見直しと明確化に取り組む。	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (1) 「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の教育理念を継承する自校教育 ①自校教育内容の見直しと明確化
8	学修行動調査の実施結果を教育力の向上につなげる体制を構築し、結果の分析を開始する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ⑨学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック

2. 家政学部

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	通信教育課程と連携して、通信教育課程改革の具体策を講じ、実行する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (5) 通信教育課程
2	児童学科の保育士課程設立を支援し、家政学部全体の中で位置付ける。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ①保育士養成課程の設置
3	2015年度家政学部共通科目（前期）のアンケート調査に基づき、家政学部3ポリシーと家政学部共通科目の関連を分析し、改革のための課題を提起する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証
4	専門科目としての連携科目・グローバル科目の新設を、学部全体で推進する。それぞれの学科の中での位置付けと、家政学部としての3ポリシーの視点からの位置付けを調整する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証
5	5学科のナンバリングによるカリキュラム・ツリーを完成させ、それをもとに家政学部の3ポリシーについて検証する。必要であれば、3ポリシーの改正も提起する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ④教育課程の体系化（シラバス、コース・ナンバリングの整備など）
6	家政学部の内部質保障や3ポリシーの再検討を検討する組織を、これまでの「家政学部を考える会」から分離して、「家政学部改革委員会（仮）」で行う。構成員は、家政学部長、5学科長、5学科科目委員、通信教育課程長からなる。必要に応じて、家政学部共通科目委員も加わる。年に3回程度の開催で、集中的に議論する。	対応項目なし
7	こうした議論や検討の基礎となる家政学・家政学部に関する様々なデータを、学内組織の持つデータ、インターネット上の資料、独自の調査などによりできる限り多く集める。	対応項目なし

3. 家政学部通信教育課程

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	教育の質保証にあたって、入学から卒業までの学修課程の現状を把握し、その可視化を進める。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証
2	2016年度4月及び10月入学の正科生200名以上を確保する。そのために必要な広報の拡充を図る。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開
3	退学者の現状を把握し、退学者を減らす。そのために多様な学生のニーズに即した学修支援を検討する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実
4	特任教員が加わった新体制に基づき、通信教育課程の取り組むべき課題を整理し、実行可能な中期計画を立てる。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (5) 通信教育課程の今後のあり方について検討する。

4. 文学部

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	カリキュラム・ツリーのもとでのカリキュラムの内容構成を各学科および学部として点検する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ④教育課程の体系化（シラバス、コース・ナンバリングの整備など）
2	eラーニングの実施状況を確認し、その成果を検証する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ⑨学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック
3	アドミッション・ポリシーに基づく新たな入試方法を実施し、その点検を行うとともに、入試広報の拡充を図る。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ①アドミッション・ポリシーの再確認 ②志願者の増加施策の検討 ③アドミッション・ポリシーに基づいた入試広報の拡充
4	外国人留学生と学生、教員が相互に交流を推進し、外国人留学生と学生双方が、互いの文化、文学、歴史について理解を深める。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ③外国人留学生・教員の相互交流の推進 ④自国の文化、歴史の理解の深化
5	文学部コース制について検討する。	対応項目なし

5. 人間社会学部

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	展開科目と教養科目の摺り合わせに関する各学科の意向を踏まえて、学部改革協議会で調整を図る。	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (3) 教員の総合力を生かした基盤的教育 ②教養科目の全学共通カリキュラム作成
2	英語の必修化について学修状況把握のもと、外国語学習の更なる充実を図る。	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 (2) 実践的な英語力の伸長 ①2キャンパスの英語教育（運営体制・カリキュラム）の統一
3	教職課程カリキュラムの盤石化を図る。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ②教職課程カリキュラム及び運営体制の見直し
4	入学志願者増の方策を、学部改革協議会でさらに検討し、実施を図る。	対応項目なし

6. 理学部

	到達目標	対応する中・長期計画の項目等
1	グローバル化に対応する専門分野の英語教育の充実	2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ①外国語学習環境の整備・充実
2	情報教育の内容検討と科目構成の検証	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (4) 総合大学にふさわしい専門教育（大学）と高度専門教育（大学院） 学士課程教育 ①各分野の基礎教育を充実させる。
3	1年次教育の現況報告と問題点に関する意見交換、来年度に向けての対応策についての検討	対応項目なし
4	理学部独自の、新入生、卒業生アンケートや対応項目なしのアンケート結果の分析を通して学部としての入試対策、教育体制を検証	対応項目なし
5	地域連携活動の継続的、積極的活動への学部としての支援	対応項目なし

II 大学院

1. 大学院全体

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	外国人留学生の志願者増に向けた取り組みを2015年度に引き続き検討する。出願に関する情報の分かりやすい案内、台湾や中国での現地フェアへの参加の検討、優秀な外国人留学生の獲得を念頭に置いて進める。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ③外国人留学生・教員の相互交流の推進 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実
2	英語版を作成するなど、大学院のホームページを充実させる。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討 2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ③外国人留学生・教員の相互交流の推進 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実
3	博士論文のインターネット全文公開に際しての「やむを得ない事由」への対応を検討する。	対応項目なし

2. 家政学研究科

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	家政学各専門領域の研究・知見を国際的なものとするために、留学生に広く門戸を開き、多様な学生を集める。そのために、留学生の入学試験について検討、準備する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実
2	できるだけ早い段階で、学部学生に、家政学研究科での研究の内容やその可能性について知る機会をつくり、大学院進学を選択肢と思考できる環境をつくる。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討
3	通信教育課程家政学専攻のあり方について検討し、今後の方針を決定する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (5) 通信教育課程

3. 人間生活学研究科

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	博士論文のインターネット公開について、その延期等の細則を整備する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証
2	より多角的な議論や研究が行われることを目指して、人間発達学専攻と生活環境学専攻の統合のための手続きを進める。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証

4. 文学研究科

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	博士号取得を奨励し、その質の向上のための指導を強化する。	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (4) 総合大学にふさわしい専門教育（大学）と高度専門教育（大学院）大学院教育 ②より高度な学位論文作成のために学生それぞれにあった個別指導を行う 大学院教育 ③大学院教育の成果発表のために学会活動やインターシップを奨励する
2	志願者の増加を目指す。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ①アドミッション・ポリシーの再確認 ②志願者の増加施策の検討 ③アドミッション・ポリシーに基づいた入試広報の拡充
3	『日本女子大学大学院文学研究科 紀要』の今年度の号からの「日本女子大学学術情報リポジトリ」への掲載を目指す。このことにより、研究成果の社会への発信の幅を広げる。	対応項目なし

5. 人間社会研究科

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	教育・研究成果等の可視化の充実を図る。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証
2	大学院学生の学習・研究に対する支援の充実を図る。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実
3	留学生の学習・研究に対する支援の方策を検討する。	2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実
4	社会人を対象とした志望者増の方策を検討する。	3. 一貫教育、生涯教育計画 (1) キャリア開発とリカレント教育課程

6. 理学研究科

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	専攻間の交流強化を意識した、大学院授業の分野横断的な研究指導体制の点検	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (2) 四つの科学系等（人間生活学系・人文科学系・社会科学系・自然科学系）の発展
2	学修成果を反映した、奨学金評価制度の改革	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ⑨学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック
3	多様なICTを活用した大学院生への進路・就職情報発信および相談窓口の設置による研究生生活全般への支援強化	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援・生活支援・進路支援・留学支援など）の充実 ①学生が自発的に学習する支援体制の検討 ③障がいのある学生への学修支援体制整備 ⑤多様化する進路・就職に対する支援体制の強化
4	日韓三女子大学合同シンポジウムの継続・発展	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (5) 国際交流の推進
5	理学部サマースクールや文京区科学特別教室などを継続し、地域社会と連携して、科学の啓蒙活動の推進	1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 目白・西生田の両キャンパスを活用した教育研究環境の充実 (2) 高度な研究を支える教育研究環境の整備 2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ⑧高大接続の充実
6	社会人入学制度改革の発信とそれによる大学院入学者の確保（教員や技術職として働いているOGIに、積極的に情報発信をしていく）	対応項目なし

Ⅲ 事務局

1. 学長室

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	学長選考に関する規程の整備及び規程に基づく適切な運用を行う	4. 管理運営 (1) 大学の理念・目的の実現に向けて、環境変化に対応した管理運営体制の構築
2	法人運営に関する規程の見直し・整備を行う	4. 管理運営 (1) 大学の理念・目的の実現に向けて、環境変化に対応した管理運営体制の構築 ①ガバナンス体制の見直し ②法人組織と教学組織との役割及び権限の明確化 ③意思決定プロセスの明確化
3	IRを活用した法人運営に向けて検討を行う	6. 計画推進等の体制 (3) IRを活用したマネージメント

2. 総務部

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	大規模地震及び災害に備えて、学園関係者への防火・防災に対する意識の更なる向上を図るとともに、マニュアルの整備、行政との連携強化の検討、防災備蓄品の充実等、防火・防災体制の整備及び事業継続計画の策定を進める	4. 管理運営 (3) 危機管理体制の明確化 ①大規模自然災害への対応
2	学園の安全保持のため、警備体制の見直し・強化を図るとともに、関係部署間の対応体制を整備する。目白キャンパスにおいては、新しい目白キャンパス計画を踏まえて、セキュリティについて検討する	4. 管理運営 (3) 危機管理体制の明確化 ③キャンパス統合を視野に入れたキャンパス内の安全の維持
3	西生田キャンパスの水田記念公園を中心とした森の環境整備を行う	1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 教育改革・教育研究環境の充実を実現するためのキャンパス再整備 (2) 西生田キャンパスは郊外・森のキャンパスをキーワードとし、地域の宝である里山を中心とした自然環境を生かし先進的教育・研究の場としての検討を行う。
4	行政や近隣大学・近隣地域との連携事業を促進し、地域に根ざした大学を目指すとともに、多様化する社会のリーダーとして学際的な問題意識に応えられる学生を育てる教育としての活動を継続する	3. 一貫教育、生涯教育計画 「自学自動」「自念自動」を実践する女子教育 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制
5	業務委託先の選定方法、発注方法の見直しを継続して行い、調達コストの最適化を図る	5. 財政計画 (1) 教育研究の安定した遂行のための財政基盤の確立 ③人件費及び経費の抑制策の実現 (2) 適切な予算編成、予算執行
6	雇用に関わる法律の改正に伴い、関連する学内諸規程の整備を進めるとともに、適正な運用を行う	4. 管理運営 (2) 明文化された規程に基づく管理運営の実施 ①関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用
7	キャンパス一体化後の事務組織・体制を確立する	4. 管理運営 (4) キャンパス一体化後の事務組織・体制の確立
8	公式ホームページの内容充実を継続し、情報訴求力を高める	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ③アドミッション・ポリシーに基づいた入試広報の拡充 3. 一貫教育、生涯教育計画 「自学自動」「自念自動」を実践する女子教育 (5) 学園一貫の広報活動の充実 4. 管理運営 (5) 広報体制の充実 ①ホームページの内容改善
9	プレスリリースの方法などを改め、情報発信力を向上させる	4. 管理運営 (5) 広報体制の充実 ②プレスリリースの拡充
10	広報誌「学園ニュース」の誌面刷新を継続、学園全体へのPR力を高める	4. 管理運営 (5) 広報体制の充実 ③学園ニュースの誌面見直し

11	大学案内を刷新する（制作手順・内容・構成など）	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ③アドミッション・ポリシーに基づいた入試広報の拡充 4. 管理運営 (5) 広報体制の充実
12	目白・大学地区において、継続して推進している廃棄物の削減及び廃棄物の分別の促進によるリサイクル率の向上、循環再生紙利用率の向上を更に目指すため、学園構成員の意識の向上を図る	対応項目なし
13	キャンパス内樹木について、目白キャンパス計画を踏まえた管理・整備を図る	対応項目なし
14	安全性の向上とバリアフリー化を図るため、目白通りの横断方法について管理部とともに行政と連携しながら検討を進める	対応項目なし
15	マイナンバー制度を適正に運用する	対応項目なし
16	Vision120に向けた職員の意識改革のための研修を実施する	対応項目なし
17	労働安全衛生向上のため、職員の時間外労働時間を抑制する	対応項目なし

3. 財務部

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	創立120周年記念事業募金を含む金融資産の拡充を図る	5. 財政計画 (1) 教育研究の安定した遂行のための財政基盤の確立 ①自己資金の充実
2	収支バランスのとれた予算編成と適正な執行を行う	5. 財政計画 (1) 教育研究の安定した遂行のための財政基盤の確立 ②バランスの取れた収支 ③人件費及び経費の抑制策の実現 (2) 適切な予算編成、予算執行 ①事業活動収支収入超過予算編成 ②教育・研究改革推進のための経費の政策的な配分と検証
3	わかりやすい財務情報を公開する	6. 計画推進等の体制 (4) 情報の公表による説明責任遂行

4. 管理部

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	目白キャンパス将来構想に基づく各種工事、建物等実施設計を推進する	1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 教育改革・教育研究環境の充実を実現するためのキャンパス再整備 (1) 目白キャンパスは都心・エコキャンパスをキーワードとし、歴史と伝統を誇る交流と知的創造の場、都心のオアシスを構築する。 ①目白キャンパス設計・工事
2	教育・研究環境の充実のための情報（ICT）基盤の高度化を推進する	1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 教育改革・教育研究環境の充実を実現するためのキャンパス再整備 (1) 目白キャンパスは都心・エコキャンパスをキーワードとし、歴史と伝統を誇る交流と知的創造の場、都心のオアシスを構築する。 ①目白キャンパス設計・工事
3	障がい者対応を含む施設のアメニティ向上を行う	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実 ③障がいのある学生への修学支援体制整備
4	計画的に耐震補強工事を実施する	4. 管理運営 (3) 危機管理体制の明確化 ①大規模自然災害への対応
5	研究費で購入する物品の検収内容の見直しを行う	対応項目なし
6	JASMINEメールシステムの更新（クラウド化）を実施する	対応項目なし
7	環境問題への取り組みを推進する	対応項目なし
8	収益事業法人設立の検討を行う	対応項目なし
9	中高校舎の建物設備について改修工事を実施する	対応項目なし

5. 学務部

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	学園一貫教育研究集会のあり方、報告書について検証を行う	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (6) 特色ある一貫教育の実現 ②学園一貫教育研究集会報告書の検証
2	学生の授業外での学修を支援するためのラーニング・コモンズ及びランゲージ・ラウンジの利用者の満足度を向上させるとともに、授業科目との連携を図り、利用者数の増加を図る	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 グローバル化した21世紀社会をリードする女性の育成 (1) 徹底した外国語教育 1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実 (1) 学生の主体的学びを涵養する教育研究環境の整備
3	東京都福祉保健局への「指定申請書」の提出、実地調査及び2017(平成29)年度保育士養成課程開設の準備を行う	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証 ①保育士養成課程の設置
4	キャンパス一体化に向けた教職課程運営体制を検討する	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証 ②教職課程カリキュラム及び運営体制の見直し
5	現在実施している附属高等学校・大学の連携の拡充を計画・実施する	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証 ⑧高大接続の充実
6	アドミッション・ポリシーの見直しを行う	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針(アドミッション・ポリシー)による適切な学生募集の展開 ①アドミッション・ポリシーの再確認
7	入試データの検証・分析により新たな入学者選抜方法を検討する	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針(アドミッション・ポリシー)による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討
8	オープンキャンパスの効果的・効率的な運営を行い、来場者の満足度を向上させる	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針(アドミッション・ポリシー)による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討
9	障がい学生への履修登録、授業の受講、定期試験の実施など、障がい学生の履修全般における合理的配慮の対応事例をまとめる	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援(学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など)の充実 ③障がいのある学生への修学支援体制整備
10	公的研究費の適正な使用にかかる実質的な取り組みを履行する	対応項目なし
11	研究活動における不正行為に対する関係者の意識浸透を図る取り組みを履行する	対応項目なし

6. 学生生活部

	到達目標	対応する中・長期計画の項目等
1	協定・認定大学留学する学生数増を目指し、新しい留学制度・奨学金制度を2017年度から導入するための準備を行う	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (5) 国際交流の推進 ①留学希望者への支援のあり方の検討 2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ②留学制度等の充実 ⑥協定・認定大学留学制度等の整備
2	外国人留学生の募集広報に積極的に参加し、受入人数を増やす	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (5) 国際交流の推進 ①留学希望者への支援のあり方の検討 2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実
3	障がいのある学生への支援について、修学支援・サポートを継続的かつ適切に進める	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援(学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など)の充実 ③障がいのある学生への修学支援体制整備

4	目白寮について、現寮舎の今後の運営、運用の決定に向けた計画を策定する	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援 (学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など) の充実 ④新たな学寮のあり方についての検討
5	各種就職ガイダンス・ワークショップの内容を精査し、体験型プログラムを組み込む等により学生の就職活動を支援する	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援 (学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など) の充実 ⑤多様化する進路・就職に対する支援体制の強化
6	保護者向け就職関連情報の発信を強化する	対応項目なし

7. 通信教育・生涯学習事務局

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	2016年度正科生入学者200名以上を確保する。そのために必要な広報の拡充を図る	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針 (アドミッション・ポリシー) による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討
2	学習の進まない学生や除籍・退学希望者の現状を把握し、在学生の満足度及び定着率を上げるための支援の方策を検討し、実施する	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援 (学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など) の充実
3	教育の質保証に向けて学修過程等の現状を把握し、可視化を進める	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー) の実施と教育の質保証 ⑨学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック
4	リカレント教育課程において、企業との連携による講座を開講することにより、新たな学習機会の提供と再就職支援の強化を行う	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1) キャリア開発とリカレント教育課程
5	在学生向けに正課外として開講しているキャリア支援講座 (資格取得・語学・就職活動支援) において、講座の見直しや学習奨励を目的とした受講料優遇等を実施することにより、資格取得や語学力向上といった学生支援につなげる	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援 (学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など) の充実 ⑤多様化する進路・就職に対する支援体制の強化
6	公開講座事業において、文京区及び川崎市との連携を強化し、多様な形態の講座の提供を通じて大学の研究成果を地域社会に還元する	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制
7	リカレント教育課程については、カリキュラムや課程制度の点検・改善、再就職支援の向上を図るとともに、取り組みを周知する活動を展開する	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制

8. 学園活動評価・改革計画室

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	自己点検・評価責任部局として、各機関が中・長期計画の各項目に対する年度の到達目標を設定し、年度末に報告書を作成することで進捗状況を可視化できるようにする	6. 計画推進等の体制 (1) 中・長期計画の実施体制、責任主体 ①年度ごとの計画の進捗状況の確認と見直し
2	自己点検・評価委員会は、各機関における中・長期計画に基づく今年度の到達目標策定と年度末における点検・評価を推進する	6. 計画推進等の体制 (2) 中・長期計画の実施に対する点検・評価体制 ①中・長期計画を遂行するための各年度のプラン作成と点検・評価
3	大学基準協会に提出する「改善報告書」について最終調整を行い、提出する	6. 計画推進等の体制 (2) 中・長期計画の実施に対する点検・評価体制 ③大学基準協会による認証評価の受審
4	「教学比較 I R コモンズ」参加を通して、本学での教学 I R の活用を推進する	6. 計画推進等の体制 (3) I R を活用したマネジメント
5	自己点検・評価報告書を公開する	6. 計画推進等の体制 (4) 情報の公表による説明責任遂行

IV 附属機関

1. 図書館

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	今後の大学図書館の在り方を検討し、キャンパス構想のもとで図書館新設の計画を進め、キャンパス一体化に向けた準備を行う	1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実 (1) 学生の主体的学びを涵養する教育研究環境の整備 ①目白キャンパスでの教育研究環境整備 ②西生田キャンパスの新たな活用法を検討 (5) 他分野交流の展開を実現する環境提供(学生、教員、職員、分野を超えた相互横断的コミュニティの形成) ①目白キャンパス整備 3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制 ③キャンパス一体化後の連携体制についての検討
2	学修(学習)支援機能向上のため、目白に続き西生田にラーニング・スペースを新設して両図書館での活用をめざすとともに、図書館主催の情報検索講習会、教員からの依頼による授業時間内ガイダンスの充実を図る	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援(学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など)の充実 ①学生が自発的に学習する支援体制の検討
3	学術情報リポジトリ運用指針を周知するとともに諸課題への対応を行い、登録件数増加を目指し、本学リポジトリの充実を図る	3. 一貫教育、生涯教育計画 「自学自動」「自念自動」を実践する女子教育 (4) リーダーシップ・独創性・協力を発揮しうる女性の資質をのばす教育活動、研究活動、社会貢献活動 ③研究の成果の学園内外への発信

2. 成瀬記念館

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	展示を通して本学の歴史や教育理念を伝える	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (7) 学園アイデンティティの確立
2	第1に創立者の記念館としては、昨年度に引き続き成瀬仁蔵関連連書簡集の編纂を進める。刊行は成瀬没後100年にあたる2019年を予定している。	対応項目なし
3	第2に学園全体の博物館として、今年度は食物学科の協力を得て特別展示「国際人教育の原点—伝統の調理実習」を、また泉フロートガーデンに焦点を当てた「庭を創る・庭を撮る」を開催する。	対応項目なし
4	第3に大学アーカイブズとして、2021年の成瀬記念館収蔵資料の全面公開をめざし準備を進める。そのためにはシステムの構築と資料の保管場所・閲覧スペースの確保が必須であることを学内に訴えていくとともに、学園の刊行物のWeb公開をめざしていく。	対応項目なし

3. 総合研究所

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	日本女子大学の学園構成員が互いに協力し合う研究の拠点となるよう、幅広く研究員を募集する	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (6) 特色ある一貫教育の実現
2	教員の研究内容によって社会に貢献するため、刊行助成制度への応募を奨励する	1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実 (3) 地域連携・社会貢献型教育研究の促進
3	「日本女子大学総合研究所 研究内規」の第2条(1)、(2)にあるとおり、日本女子大学の特性についての研究を奨励し、その研究内容を口頭発表、論文発表してもらうことによって、学園構成員及び社会の日本女子大学について理解を深める	対応項目なし

4. 現代女性キャリア研究所

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	キャリア教育の授業において講師及び参考図書の推薦	3. 一貫教育、生涯教育計画 女性の活躍を支援するキャリア教育 (2) 女性の主体的な生き方を実現するためのキャリア教育 ②現代女性とキャリア専攻及びキャリア女性副専攻の科目の検討
2	社会で活躍しうる女性の資質をのばす	3. 一貫教育、生涯教育計画 「自学自動」「自念自動」を実践する女子教育 (4) リーダーシップ・独創性・協心力を発揮しうる女性の資質をのばす教育活動、研究活動、社会貢献活動
3	卒業生のネットワーク作り	対応項目なし
4	他大学の女性就業支援との連携	対応項目なし
5	調査・データベースの拡充	対応項目なし

5. 教職教育開発センター

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	女性教員養成に長い歴史と実績をもつ本学の特長を踏まえて、教職に就いている現職卒業生を支援する。そのために、今年度も引き続き「教員免許状更新講習」及び「ワークショップ」を実施し、メールマガジンを発行する。中でも「更新講習」においては、制度改革に伴い「選択必修領域講習」を新たに開設し、現職卒業生のブラッシュアップに貢献する	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1) キャリア開発とリカレント教育課程
2	上述の特長を踏まえて、教職を目指している学部生や院生を支援する。そのために、教員採用試験対策講座及び専門家による日常的な指導・助言の内容を充実させる	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ②教職課程カリキュラム及び運営体制の見直し
3	「教職教育開発センター 年報」を刊行する	対応項目なし

6. 生涯学習センター リカレント課程

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	(地域連携) 文京区及び川崎市との連携を強化し、多様な形態の講座や事業の提供を通じて大学の研究成果を地域社会に還元する	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制
2	(生涯教育) 生涯学習センター、リカレント教育課程において、企業との連携によるより実践的な講座を開講することにより新たな学習機会を提供し、リカレント教育課程の再就職支援の強化を行う	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1) キャリア開発とリカレント教育課程
3	(学生への修学支援) 在学生向けに正課外として開講しているキャリア支援講座(資格取得・語学・就職活動支援)において、講座の見直しや学習奨励を目的とした受講料優遇等を実施することにより、資格取得や語学力向上といった学生支援につなげる	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1) キャリア開発とリカレント教育課程
4	(学園関連組織との連携) 各学部・学科、桜楓会、WILPF、RIWACなどの学園関連組織等との連携により講座や事業を行い、生涯学習や働く女性の支援事業を進める	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制

7. メディアセンター

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	ICTを利用し、学生が主体的に学習する環境を整備する ・コンピュータ演習室の設備更改の実施、ならびにキャンパス構想におけるコンピュータ演習室の必要量に関する方針策定	1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 教育改革・教育研究環境の充実を実現するためのキャンパス再整備
2	個人情報の扱いに関するガイドラインを、前回制定の後の状況変化を踏まえ更新する	4. 管理運営 (3) 危機管理体制の明確化
3	学内ネットワーク環境整備(無線LAN設備の増強等)	対応項目なし
4	コンピュータ演習室における紙資源利用の削減の努力	対応項目なし

8. カウンセリングセンター

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	附属校園および大学の校種間連携に、心理的支援という側面から寄与する	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育
2	カウンセリング活動を通じて、幼稚園から大学、大学院にわたる、精神的健康の維持、増進および人格形成に貢献する	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (1) 「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の教育理念を継承する自校教育
3	グループセミナー活動、カウンセリング活動、講義などを通して、すべても学生の心理的成長を促す	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育
4	保健管理センター、教務・資格課、学生課、国際交流課、キャリア支援課、学科等の連携をスムーズにし、キャンパス内の学生支援ネットワークを構築する	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育
5	キャンパス統合にむけて、学生の多様なニーズに応えられ、利用しやすい環境を検討する	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育
6	精神障害、発達障がい（疑いを含む）学生への支援体制を構築する	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実 ③障がいのある学生への学修支援体制整備

9. 保健管理センター

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	大規模地震及び災害に備え、学生の応急手当に関する自助力の向上をめざす	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育 ①健康教育の充実
2	喫煙、不適切な飲酒、薬物乱用をはじめとする危険行動を、学生が回避できるためのライフスキルの向上をめざす	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育 ①健康教育の充実
3	教職員健康管理体制の充実 ・労働安全衛生法改正にともなうストレスチェック制度の確実な導入 ・定期健康診断における受付及び胃部エックス線検査の円滑で安全な進行	対応項目なし
4	児童・生徒・学生の健康診断の確実な実施 ・学校保健安全法施行規則の一部改正（健康診断の技術的基準変更）に則し、児童・生徒については、一層、四肢の形態・発育並びに運動器機能に注意した健康診断を行う	対応項目なし

10. さくらナースリー

	到達目標	対応する中・長期計画の項目
1	学生・教員の教育・研究の場として機能するように保育現場と連携して検討する	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ①保育士養成課程の設置
2	事業所内保育所としての機能を損なうことのない社会貢献の可能性について検討する	1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実 (3) 地域連携・社会貢献型教育研究の促進 3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制
3	保護者や保育士の意見を聴取し、利用する乳幼児の特性に合った安全で豊かな保育環境の整備を行う	対応項目なし

I 大学·大学院

自己点検・評価 部署名	大学全体
-------------	------

1. 内部質保証に関するプロセス

(各到達目標に個別に記載)

内部質保証：PDCAサイクル等の方法を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育・学習その他のサービスが一定水準にあることを大学自らの責任で説明・証明していく学内の恒常的・継続的プロセス

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	教養科目・展開科目等にアクティブ・ラーニングを取り入れた演習科目を担当教員・受講者の協力を得て、検証する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ⑤教育方法の改善（アクティブ・ラーニングなど新しい授業方法に対するサポート体制をつくる）
今年度の達成状況	A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	・アクティブ・ラーニングの実施結果について意見交換するワークショップ「明日の教養教育を語る」を実施し、その内容を教養教育委員会のニューズレターにまとめる事ができた。 ・それを明確に検証として、次に生かす取り組みはこれからである。
内部質保証に関するプロセス	P：教養科目・展開科目の中で、アクティブ・ラーニング科目の充実を図る計画を周知した。 D：2016年10月に、全学をあげたワークショップ「明日の教養教育を語る」を実施し、アクティブ・ラーニング科目担当の教員からの基調講演後に参加者同士で意見交換した。 C：上記ワークショップの内容を教養教育委員会ニューズレターにまとめて教授会で配布した。 A：教養教育委員会等で引き続き今年度の結果を検証し、課題を抽出の上、次年度の教育実践に取り組む。
到達目標 2	基礎外国語教育の一層の充実を図り、また基礎外国語全体としてeポートフォリオの試行的導入を実施する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ⑤教育方法の改善（アクティブ・ラーニングなど新しい授業方法に対するサポート体制をつくる）
今年度の達成状況	A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	・人間社会学部で、全ての学科で英語科目の必修化を実現した。 ・上記必修カリキュラムでは、新入生オリエンテーション期間内にプレイズメント・テストを実施し、習熟度別クラス制度を導入した。 ・家政学部、文学部、理学部で、アクティブ・ラーニングを取り入れた新科目「アクティブ・イングリッシュ」を必修英語科目とした。 ・eポートフォリオの試行的導入については、試行例を構築したが、実際の導入は次年度となる予定である。
内部質保証に関するプロセス	P：英語教育におけるプレイズメント・テスト及びその結果に基づくクラス分け等の実施計画を立てた。また、家政学部、文学部、理学部で、アクティブ・ラーニングを取り入れた新科目「アクティブ・イングリッシュ」を必修英語科目とした。 D：人間社会学部にて、プレイズメント・テストを実施の上、習熟度別のクラスにてベーシックイングリッシュの授業を実施した。また、家政学部・文学部・理学部ではアクティブ・ラーニングを取り入れた新科目「アクティブ・イングリッシュ」を必修英語科目として実施した。 C：次年度、上記実施にかかる検証を行う。 A：検証結果を踏まえて、習熟度別の授業実施形態及び少人数制によるアクティブ・ラーニング形式をさらに進める等の改変に取り組む。

到達目標 3	学校教育法施行規則の一部改正に対応した3ポリシーの見直しを計画し、平成29年3月までに新たな3ポリシーを策定・公表する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	・ 学部長会が各学部・学科に、また研究科委員長会が各研究科に、3ポリシーの見直しを依頼した。 ・ 各部局から集まった同ポリシーの全体整合をチェックして、確定した。 ・ 当該ポリシーを講評の上実施を見守り、次の改定に備える。
内部質保証に関するプロセス	P：学校教育法施行規則の一部改正に対応した3ポリシーの見直しについて、各学部学科及び研究科に依頼し、見直しの期限を設定した。 D：各学部学科及び研究科における3ポリシーの見直し実施。 C：学部長会及び研究科委員長会にて、全学部学科の3ポリシーをチェックした。 A：改定された3ポリシーを公表する。
到達目標 4	各学科が実施した、GPA制度を活用した成績不振者の個別指導の結果を分析・検証する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実 ① 学生が自発的に学習する支援体制の検討
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	・ GPAが1.3未満の学生に対して各学科で面談をし、記録を残すところについては実施できている。 ・ ただ、その内容を分析し、さらなる指導支援のあり方に汎用化していく点については、さらに検討と実施を継続する必要がある、次年度継続する。
内部質保証に関するプロセス	P：各学科にて、GPAが1.3未満の学生に対する状況確認と指導及び支援をし、記録を残すように要請。 D：前後期1回ずつ、各学科にて該当する学生への面談を実施し、記録を各学科中央研究室に集約した。 C：学部長会にて、学科ごとの実施数を確認した。 A：学科ごとに指導と支援の成果について確認検証の上、次年度以降の指導支援に生かす。
到達目標 5	キャンパス一体化後の新教育カリキュラムについて検討を継続する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	・ 教育研究改革部会での検討により、キャンパス統合時のカリキュラムスリム化や時間割編成方針にかかる検討をスタートした。 ・ 児童学科及び教育学科における教職課程担当の棲み分けについて整理し機関決定した。 ・ 保育士養成課程設置に向けた申請を行った。 ・ 西生田キャンパスでは授業を実施しないことについて検討した。 ・ キャンパス統合までの教学関係の作業工程表を作成した。 ・ 次年度は、科目構成・卒業要件単位数の確定及び科目のナンバリング、カリキュラム関連の各委員会体制検討に入る予定である。

内部質保証に関するプロセス	<p>P：学園総合計画委員会のもとにある教育研究改革部会において、カリキュラム関連の各種方針及び実施内容について検討する。その検討内容を各部会や大学改革委員会と連携しつつ、場合によって各学科及び教授会での検討に結び付けて、総合的な意思決定へと運ぶ。</p> <p>D：教育研究改革部会は年度内に計5回実施して、カリキュラム関連の各種検討を行った。</p> <p>C：その都度学園総合計画委員会にて報告しフィードバックを得るとともに、その内容を大学評議会にて報告し、意見を収集した。また、大学改革委員会及びその下にある各分科会での議論を集約した。</p> <p>A：新カリキュラム関連の決定事項を実施するとともに、継続して検討すべき内容の検討を実施し、科目構成・卒業要件単位数の確定が行えるよう次年度の議論につなげる。</p>
到達目標6	学部・学科を越えた教育上の連携について継続検討し、実施した科目については、実施結果を検証する。
対応する中・長期計画の項目	<p>1. Vision120に向けての将来計画</p> <p>1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革</p> <p>(2) 四つの科学系統（人間生活科学系・人文科学系・社会科学系・自然科学系）の発展</p>
今年度の達成状況	A（達成） ・ B （継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	学科連携科目として、住居学科と家政経済学科との連携科目「まちづくり演習」及び児童学科、住居学科、家政経済学科の連携科目「フィールドスタディ（農業・農村）」を開講することができた。その実施結果の検証は今後行う。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：学部・学科連携科目の持ち方や、シラバスの記載のあり方について大学改革委員会で検討し、各学科に連絡した。</p> <p>D：各学部、学科から提案された連携科目について、大学改革委員会で検討し、修正のやり取りをしたうえで開講した。</p> <p>C：実施結果については、次年度の大学改革委員会で検証する。</p> <p>A：上記検証に基づいて、開講済みの科目について改善を加え、かつ更なる開講について検討を続ける。</p>
到達目標7	自校教育内容の見直しと明確化に取り組む。
対応する中・長期計画の項目	<p>1. Vision120に向けての将来計画</p> <p>1-2 大学の教育改革</p> <p>豊かな人間性をはぐくむ実践教育</p> <p>(1) 「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の教育理念を継承する自校教育</p> <p>①自校教育内容の見直しと明確化</p>
今年度の達成状況	A （達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリア教育分科会」から分化した「自校教育分科会」において今後の自校教育のあり方について検討を加えた。 キャンパス統合時における新カリキュラム案として、1単位の自校教育を提起し、教養特別講義Ⅰ及びⅡ委員会に報告するとともに検討を依頼した。 これらに基づき、自校教育の枠組みを確定する予定である。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：大学改革委員会のもとに、「自校教育分科会」を立ち上げ、他大の取組状況の調査や、本学における教養特別講義Ⅰを中心とする自校教育の現状を検証し、新たな自校教育の明確化をする。</p> <p>D：自校教育分科会にて、計4回の検討を重ね、「自校教育」1単位の回数と内容に関する案を固めた。</p> <p>C：上記分科会での議論を毎回大学改革委員会で報告し、同時に世話人が関連性の高い「キャリア教育分科会」とも連携を促進しながら内容案を確定した。</p> <p>A：「自校教育分科会」における年間の報告書を「キャリア教育分科会」分と合わせて大学改革委員会より既存の教養特別講義Ⅰ及びⅡの両委員会に送った。両委員会での検討結果に基づき次年度枠組みを確定する予定である。</p>

到達目標8	学修行動調査の実施結果を教育力の向上につなげる態勢を構築し、結果の分析を開始する
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー) の実施と教育の質保証 ⑨学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己点検評価規則の改定をした。 ・ 教学比較IRコモンズによるALCS学修行動調査をスタートした。 ・ これらの活用をより実質化していく予定である。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：自己点検・評価委員会にて、本学の自己点検評価規則を見直し、IRに関する重要性について構成員の意識を喚起するとともに、競合する大学と共に実施する学修行動調査について検討した。</p> <p>D：自己点検・評価規則を改定するとともに、お茶の水女子大学教学比較IRコモンズに参加し、覚書の取り交わしをし、第1回目のALCS学修行動調査を実施した。</p> <p>C：自己点検評価委員会で、実施状況と、実施結果について全体像の報告をし、同時にALCS学修行動調査への参加大学による内部報告会に向け、本学学生のデータの作成・分析を実施した。</p> <p>A：教学比較IRコモンズでのALCS学修行動調査に関しては、上記内部報告会での情報を踏まえて、学内での活用についてさらに検討を進める。また、これを参考に質的調査である学生ヒアリングを実施予定である。</p>

1. 内部質保証に関するプロセス

P:	家政学部改革の重点項目の設定。(1) 通学課程と通信教育課程との具体的な連携、(2) 3ポリシーに関連する学部改革を担当する委員会として、「家政学部を考える会」とは別の「家政学部改革委員会」を設置、(3) 具体的な課題を設定
D:	家政学部改革委員会を招集し、(1)、(3)の学科レベルでの課題や実施を検討する。また改革のための基本データを集め、分析する作業を開始する(一部は専門家に委託する)
C:	家政学部学科長会議、通信学務委員会、家政学部改革委員会、家政学部を考える会で、それぞれの課題を担当する会議や委員会において、その進捗状況、課題の適切さを検討し、問題点を整理する。
A:	年度内にできるものと、中期的な課題とを峻別し、改善点を段階的に実行してゆく。

2. 中・長期計画への対応

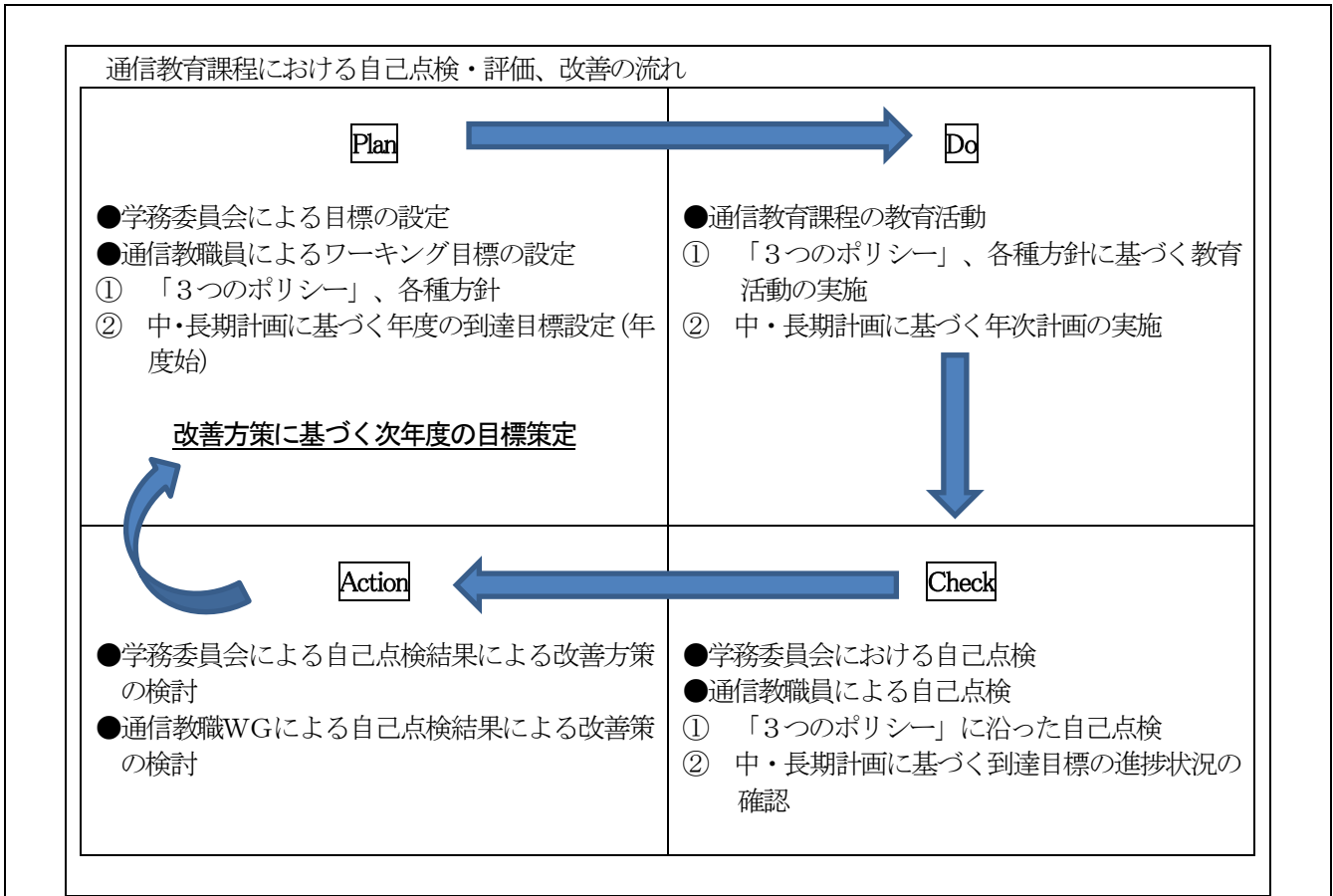
到達目標 1	通信教育課程と連携して、通信教育課程改革の具体策を講じ、実行する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (5) 通信教育課程
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	通学課程の学生が、通信教育課程が提供する資格関連科目を取得したり、通信教育課程に転籍できる可能性を探る。現行では制度上、困難な点が多いが、通学課程の学生にもメリットがあり、一つ一つニーズの有無や可能なことから検討していく。
到達目標 2	児童学科の保育士課程設立を支援し、家政学部全体の中で位置付ける。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証 ①保育士養成課程の設置
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	設置のための諸条件は整備され、2016年度中に申請が認可される予定である。学園一貫教育研究集会において、「新しい児童学科について」学科長が、保育者養成コースと、先端児童学を柱とする新しい児童学科の構築を示した。家政学部でもこの構想を学部レベルで支援するため、可能な手法や連携の可能性について引き続き検討する。
到達目標 3	2015年度家政学部共通科目(前期)のアンケート調査に基づき、家政学部3ポリシーと家政学部共通科目の関連を分析し、改革のための課題を提起する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	家政学部共通科目に関しては2017年度の実際的な運用にかかる課題を協議することとなり、2015年度実施のアンケート結果の分析までは至らなかった。しかしながら、今年度に食物学科と被服学科が実施したシンポジウムの中で、専門分野を越えた、家政学部の共通基盤となりうる成果が得られた。今後はこれらを含めて継続的に検討する。
到達目標 4	専門科目としての連携科目・グローバル科目の新設を、学部全体で推進する。それぞれの学科の中での位置付けと、家政学部としての3ポリシーの視点からの位置付けを調整する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)

点検と今後の展望	3学科による地域調査を含む連携科目を2017年度に新設する。また児童学科では、英語による児童学の多様なテーマを発展させる。これはそれぞれの領域での最初の試みであり、2017年にはさらに多くの、連携科目やグローバル科目を、5学科で相互に提案してゆく。
到達目標5	5学科のナンバリングによるカリキュラム・ツリーを完成させ、それをもとに家政学部の3ポリシーについて検証する。必要であれば、3ポリシーの改正も提起する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー) の実施と教育の質保証 ④教育課程の体系化 (シラバス、コース・ナンバリングの整備など)
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	ナンバリングの専門家を招請し、5学科の共通の基準のもとでのナンバリングとカリキュラム・ツリーを完成させた。しかし学科の特性や資格科目などの関連から、オリジナルなナンバリングも不可欠となった。これを学科の特性として、むしろ積極的に位置づけてゆく。3ポリシーとの関連は、現段階ではまだ十分に検討されていない。

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標6	家政学部の内部質保証や3ポリシーの再検討を検討する組織を、これまでの「家政学部を考える会」から分離して、「家政学部改革委員会(仮)」で行う。構成員は、家政学部長、5学科長、5学科学科目委員、通信教育課程長からなる。必要に応じて、家政学部共通科目委員も加わる。年に3回程度の開催で、集中的に議論する。
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	学部長を議長として、5学科長、5学科学科目委員、通信教育課程長からなる家政学部改革委員会を設置。ここで中期的な改革項目を作成し、段階的な実施プランも作成・実行する。家政学部を考える会は、家政学部全体のイベントに特化する。組織づくりとしては2016年度で完成し、出された課題に対して、順次、その実現のための手法や施策を検討する。
到達目標7	こうした議論や検討の基礎となる家政学・家政学部に関する様々なデータを、学内組織の持つデータ、インターネット上の資料、独自の調査などによりできる限り多く集める。
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	第一段階としては、(1) 家政学部を持つ大学の戦後の学部改革のデータベース化、(2) 家政学部の5学科が指定校推薦を設定する高校に関するデータベース化、(3) 保育士養成と通信教育課程の事例、管理栄養士に関連するすべての学部・学科のデータベース作成。2017年度は第二段階として、このデータを駆使した家政学部レベルでの新しい高大連携や、資格職のカリキュラム改革を検討する。

1. 内部質保証に関するプロセス

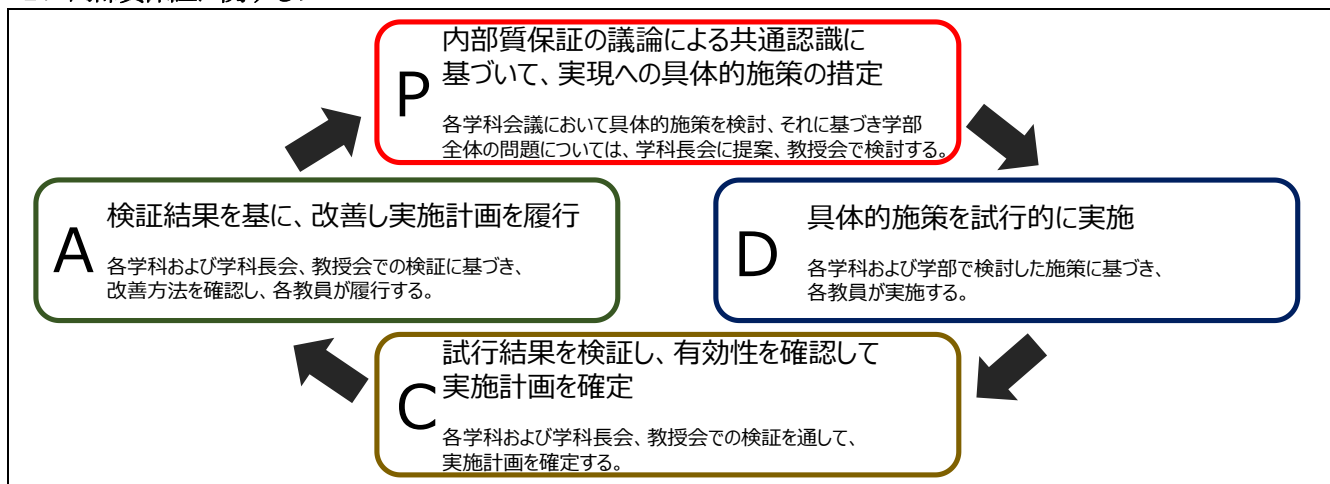


2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	教育の質保証にあたって、入学から卒業までの学修課程の現状を把握し、その可視化を進める。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	学生データの確認、レポート成績・最終試験の実態把握をおこなった。今後、システムの変更に伴い、ポートフォリオについて検討する。
到達目標 2	2016年度4月及び10月入学の正科生200名以上を確保する。そのために必要な広報の拡充を図る。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針(アドミッション・ポリシー)による適切な学生募集の展開
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	今年度入学者は、目標値200名を突破。来年度に向けてさらなる入学者確保に努める。新しいプログラムの広報としてチラシ作成をおこなった。今後、周知の方法について、ホームページの充実も含めて検討する。
到達目標 3	退学者の現状を把握し、退学者を減らす。そのために多様な学生のニーズに即した学修支援を検討する。

対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援 (学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など) の充実
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	退学・除籍が見込まれる学生に、事前に連絡をして、学修の継続を促す努力をした結果、退学者の減少につながっている。今後は、履修状況のチェックを教職で把握し、学修支援をおこなっていく。
到達目標4	特任教員が関わった新体制に基づき、通信教育課程の取り組むべき課題を整理し、実行可能な中期計画を立てる
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (5) 通信教育課程の今後のあり方について検討する。
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	通信の改革について以下5つのワーキングを立ち上げ、教職協同で取り組んだ。1. 入試のあり方検討WG、2. カリキュラム改革WG、3. 広報活動WG、4. IR推進WG、5. 新たな教育方法検討WGを通して、課題が明らかとなり、中期的には、学生への学修支援、社会ニーズに即した資格・プログラムの提供、IR推進に努める。
内部質保証に関するプロセス	P : テーマの設定 D : 教職協同によるワーキング C : 課題整理 A : 中期計画の策定・実施

1. 内部質保証に関するプロセス



2. 中・長期計画への対応

到達目標1	カリキュラム・ツリーのもとでのカリキュラムの内容構成を各学科および学部として点検する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー) の実施と教育の質保証 ④教育課程の体系化 (シラバス、コース・ナンバリングの整備など)
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	今年度は、学部の3方針について再検討し、それに基づき学科長会および各学科でカリキュラム・ツリーのもとでのカリキュラムの内容構成を点検した。今後、学科間のカリキュラムを調整し、学部全体としての整備を行う必要がある。
到達目標2	eラーニングの実施状況を確認し、その成果を検証する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー) の実施と教育の質保証 ⑨学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	昨年度より利用範囲が全学生に拡大させ、今年度は基礎語学教育改革の取り組みとして、積極的にeラーニングを利用した授業を展開し、一定の成果を得た。今後は、さらにeラーニングを利用した授業を増やし、利用者の増加を図る必要がある。
到達目標3	アドミッション・ポリシーに基づく新たな入試方法を実施し、その点検を行うとともに、入試広報の拡充を図る。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針 (アドミッション・ポリシー) による適切な学生募集の展開 ①アドミッション・ポリシーの再確認 ②志願者の増加施策の検討 ③アドミッション・ポリシーに基づいた入試広報の拡充
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)

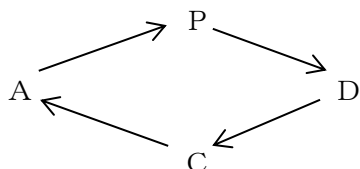
点検と今後の展望	今年度は、昨年度の史学科に引き続き、日本文学科が自己推薦入試を導入した。これにより文学部全体で自己推薦入試を行うこととなった。アドミッション・ポリシーに基づいた試験の方法を検討、難解な論文を読み込んだ論文の作成など、本学に適する学生の確保を試みた。予想を超えての志願者があり、一定の成果があったと考える。今後は、本方法による入学者の学習成果など教育機能についての調査分析をする、いわゆるIRの一貫として追跡を行う必要がある。
到達目標4	外国人留学生と学生、教員が相互に交流を推進し、外国人留学生と学生双方が、互いの文化、文学、歴史について理解を深める。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ③外国人留学生・教員の相互交流の推進 ④自国の文化、歴史の理解の深化
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	今年度は、新制度による交換留学生を受け入れ、留学生と学生、教員が相互に交流できる行事などを開催、理解を深めることができた。今後は、国際交流の各部署とも連携し、より効果的な広報を通して留学生が増加し、その上での交流を促進したい。

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標5	文学部コース制について検討する。
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	今年度、文学部コース制の文化マネジメントコース、観光・文化コース、文化財コースについては例年通り履修され、一定の成果があった。今年度で文学部コース制設置10年を迎えるため、大学全体で実施されている副専攻との関係を検討の対象としたが、分科会では実質的な検討は行われなかったため、来年度も継続して検討する課題としたい。

1. 内部質保証に関するプロセス

P：目標
 D：教育活動の実施・教員のシンポジウム参加
 C：学修成果及び担当教員アンケート等に基づく評価
 A：学部改革協議会・学科での改善・改革



2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	展開科目と教養科目の摺り合わせに関する各学科の意向を踏まえて、学部改革協議会で調整を図る。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (3) 教員の総合力を生かした基盤的教育 ②教養科目の全学共通カリキュラム作成
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	・アクティブ・ラーニングを取り入れた科目を1科目、展開科目で提供し、成果があった。 ・教養科目分科会メンバーからの報告を受け、教養科目(仮)の3系列12単位化を受け入れることにしたが、展開科目と教養科目の具体的な摺り合わせにはいたらなかった。 ・展開科目のいくつかを「学部共通科目」として残すことを検討した。
到達目標 2	英語の必修化について学修状況把握のもと、外国語学習の更なる充実を図る。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 (2) 実践的な英語力の伸長 ①2キャンパスの英語教育(運営体制・カリキュラム)の統一
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	・英語の責任者より担当教員へアンケートをおこなった。習熟度別編成等、概ねクラス運営は良好であり、一応成功裏に進めることができた。
到達目標 3	教職課程カリキュラムの盤石化を図る
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証 ②教職課程カリキュラム及び運営体制の見直し
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	・資格課程分科会におけるキャンパス統合後の資格課程の検討の一環として、教職課程の検討(センター化等も含め)に着手した。 ・シンポジウム「教科及び教科の指導法」(文学部・文学研究科学術交流企画)に関係教員が参加した。 ・来年度の教職課程再課程申請に向けての準備体制の盤石化を図ることが確認された。

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標4	入学志願者増の方策を、学部改革協議会でさらに検討し、実施を図る
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定校や学科学生出身校へ各学科から(高校)訪問を行った。次年度以降も継続していくことが確認された。 ・ 人間社会学部の和文パンフレットの英文用を作成し、ホームページに掲載した。

自己点検・評価 部署名	理学部
-------------	-----

1. 内部質保証に関するプロセス

<p>P：“理学部を考える会”（立案） D：各学科・各教員（実施） C：“理学部を考える会”へフィードバック → 実施状況の報告・検証 A：“理学部を考える会”から今後の方針の提案 → 各学科での検討・意見集約 → “理学部を考える会”へフィードバック</p>

2. 中・長期計画への対応

到達目標1	グローバル化に対応する専門分野の英語教育の充実
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ①外国語学習環境の整備・充実
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	ネイティブ講師による、専門英語教育の試行として、昨年度は、物質生物科学科コロキウムの形で、生物分野の内容について、授業4回相当分の講演をおこない、28名の参加者があり、アンケート結果も好評であった。その結果を踏まえ、今年度は、生物分野、化学分野2名の講師により、合計、授業10回相当分の講演をおこなった。受講者数は、生物分野15名、化学分野10名であった。受講者の動向、感想等を参考に、さらに充実を図っていく予定である。単位化については、受講者減等の可能性も考えられ、現時点では結論に至っていない。
到達目標2	情報教育の内容検討と科目構成の検証
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (4) 総合大学にふさわしい専門教育（大学）と高度専門教育（大学院） 学士課程教育 ①各分野の基礎教育を充実させる。
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	今年度からの、理学部の「基礎情報処理」の必修化により、目白地区全学部で必修となったのを機に、上記授業内容に関する意見収集を目白地区10学科についてアンケート形式でおこなった。今後、アンケート結果の意向をくみ上げて、学科ごとの授業内容に反映していく予定である。

3. その他（中・長期計画に該当項目のない到達目標）

到達目標3	1年次教育の現況報告と問題点に関する意見交換、対応策についての検討
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	学部全体として提供している「総合自然科学」については、4分野それぞれの教員から本年度の授業状況の報告と議論を行い、来年度に向けての方針を確認した。
到達目標4	理学部独自の、新入生、卒業生アンケートやその他のアンケート結果の分析を通して学部としての入試対策、教育体制を検証
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	各学科より、今年度の新入生アンケートと昨年度の卒業生アンケートについての集計結果を“理学部を考える会”に持ち寄り検証をおこなった。その結果、今後の入試対策活動に反映させることおよび、一部のアンケート項目については再検討することとなった。また、8月におこなわれたオープンキャンパスの学部企画とサマースクールについて、それぞれの担当者からの報告と検証を経て来年度の実施方法について方針を決定した。

到達目標 5	地域連携活動の継続的、積極的活動への学部としての支援
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	各学科・各教員に問い合わせる形で、学部内の地域連携活動の現状をとりまとめた結果に基づき、各教員の費用でおこなわれてきた活動については、基本的には学部として経済的援助をおこなった。

1. 内部質保証に関するプロセス

P：研究科委員長会において課題の検討

D：専攻主任会において詳細の検討

C：各研究科委員会において論議

A：課題、目標ごとに研究科委員長会、専攻主任会、各研究科、各専攻において、対処

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	外国人留学生の志願者増に向けた取り組みを2015年度に引き続き検討する。出願に関する情報の分かりやすい案内、台湾や中国での現地フェアへの参加の検討、優秀な外国人留学生の獲得を念頭に置いて進める。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ③外国人留学生・教員の相互交流の推進 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	留学生フェアに参加し、広報活動を行った。また、入学試験で、英語の外部試験を導入した専攻が増加した。若干名の留学生の獲得につながった。更なる広報や入学試験改革に努める。
内部質保証に関するプロセス	P：外国人留学生の志願者増をはかる D：留学生フェアへの参加、英語の外部試験利用の検討 C：効果の検証 A：留学生フェアへの参加、英語の外部試験利用の導入
到達目標 2	英語版を作成するなど、大学院のホームページを充実させる。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討 (3) 国際化に向けた対応 ③外国人留学生・教員の相互交流の推進 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	パンフレット、ホームページの一部改訂を行ったが、英語版の作成は次年度となった。
内部質保証に関するプロセス	P：広く教育の内容を広報する D：パンフレット、ホームページの改訂 C：パンフレット、ホームページの内容の見直し A：パンフレット、ホームページの作成と英語版の準備

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標 3	博士論文のインターネット全文公開に際しての「やむを得ない事由」への対応を検討する。
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	ガイドラインの細則を決定し、次年度から実施することとなったが、今後実態に即して、順次見直す必要があるか見ている必要がある。
内部質保証に関するプロセス	P：博士論文のインターネット公開について、その延期等の細則を整備 D：博士論文のインターネット公開について、その延期等の細則について具体案を検討 C：他大の事例などと比較検討 A：博士論文のインターネット公開について、その延期等の細則を作成

1. 内部質保証に関するプロセス

P：家政学研究科委員会において、課題の検討
 D：各専攻において、詳細の決定
 C：家政学研究科委員会において、論議
 A：各専攻において実施

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	家政学各専門領域の研究・知見を国際的なものとするために、留学生に広く門戸を開き、多様な学生を集める。そのために、留学生の入学試験について検討、準備する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	留学生試験における外国語において外部試験の導入を促進し、専門試験の一部英語併用などを実施し、若干名の留学生が入学することとなった。今後は、試験の見直しとともに、その広報につとめる必要がある。
内部質保証に関するプロセス	P：留学生を増やすために入学試験のあり方について検討する D：留学生試験の実施方法について、具体的に検討する C：他大などの事例もふくめて、具体策を検証する A：留学生試験における外国語において外部試験の導入を促進し、専門試験の一部英語併用などを実施した
到達目標 2	できるだけ早い段階で、学部学生に、家政学研究科での研究内容やその可能性について知る機会をつくり、大学院進学を選択肢と思考できる環境をつくる。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	入学時にパンフレットを配り、早い段階で大学院進学という選択肢を明示し、修士論文の中間発表を公開し、学部学生が参加できるようにした。今後はより積極的な広報につとめる。
内部質保証に関するプロセス	P：大学院の内部進学者を増やす D：大学院における研究内容や授業についての理解を促進する C：現状の学生の大学院への理解について検証する A：入学時にパンフレットを配り、早い段階で大学院進学という選択肢を明示した。また、修士論文の中間発表を公開し、学部学生が参加できるようにした。
到達目標 3	通信教育課程家政学専攻のあり方について検討し、今後の方針を決定する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (5) 通信教育課程
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	通信教育課程家政学専攻の実態と可能性、他の選択肢について検証した結果、教員の配置などの継続困難な状況があきらかとなり、これにかわるものとして社会人コースについて検討することとなった。
内部質保証に関するプロセス	P：通信教育課程家政学専攻のあり方について検討 D：通信教育課程家政学専攻のあり方について今後の方針を作成 C：通信教育課程家政学専攻の実態と可能性、他の選択肢について検証 A：通信教育課程家政学専攻の存続に代わる社会人コースについて検討することとした

1. 内部質保証に関するプロセス

P：人間生活学研究科委員会において、課題の検討
 D：各専攻において、詳細の決定
 C：人間生活学研究科委員会において、論議
 A：各専攻において実施

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	博士論文のインターネット公開について、その延期等の細則を整備する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証
今年度の達成状況	㊤（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	博士論文のインターネット公開について検討、ガイドラインを作成した。次年度からの実施にむけて、周知し、またその適用にならない今年度のものについても、インターネット公開が延期される場合には、その理由を詳細に明らかにするようにつとめた。
内部質保証に関するプロセス	P：博士論文のインターネット公開についての細則を整備する D：博士論文のインターネット公開についての細則のガイドラインを明文化する C：人間生活学研究科の過去の事例や懸案事項について検証する A：博士論文のインターネット公開についての細則のガイドラインを明文化し、次年度から適用を決定した
到達目標 2	より多角的な議論や研究が行われることを目指して、人間発達学専攻と生活環境学専攻の統合のための手続きを進める。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証
今年度の達成状況	A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	人間発達学専攻と生活環境学専攻の統合について検討したが、それぞれが構成教員の補強も含めて努力し、それぞれの特色をいかしつつ、並存することとした。
内部質保証に関するプロセス	P：人間発達学専攻と生活環境学専攻のあり方について検討 D：人間発達学専攻と生活環境学専攻の統合について検討 C：それぞれの実態と課題について検証 A：人間発達学専攻と生活環境学専攻の統合の方向を見直すこととした

1. 内部質保証に関するプロセス

P：文学研究科及び各専攻のディプロマ・ポリシー

D：文学研究科及び各専攻のカリキュラム・ポリシーに沿った授業と研究指導の実施

- ① コースワーク：各専攻で定められた授業
- ② リサーチワーク：学位論文のテーマに沿った個別の指導

C：学習成果、研究成果の確認

- ① シラバスに示された成績評価方法による厳格な成績評価
- ② 学位論文審査基準に沿って審査を行うため、審査委員会を設置し修士論文の場合は、主査および副査2名による審査後、当該専攻教員による審査及び最終試験を実施、当該専攻全教員によって可否を判定する。また、博士論文の場合は、主査および副査4名による審査後、公開最終試験を実施、その結果について文学研究科委員会で審議、可否を決定する。

これらの学習成果、研究成果よりディプロマ・ポリシーに沿った成果が上がっているかどうかについて自己点検する。

A：自己点検結果、論文返却時における反省会での意見徴収などをもとに必要に応じてカリキュラム、指導方法の改善を検討する。

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	博士号の学位取得を奨励し、その質のための指導を強化する。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (4) 総合大学にふさわしい専門教育（大学）と高度専門教育（大学院） 大学院教育 ②より高度な学位論文作成のために学生それぞれにあった個別指導を行う 大学院教育 ③大学院教育の成果発表のために学会活動やインターンシップを奨励する
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	論文の着想段階から執筆のあらゆる過程において、指導教授がきめ細かい個人指導を行っている。また、中間方向(成果報告)及び、論文の予備審査を行い、指導教授以外の視点でもって論文内容を指導、評価できる機会を持っている。今後も、引き続き、院生の研究情報発信の経験を積むため、学会研究会などの参加、発表、学会誌や紀要などへの論文投稿を奨励する。
到達目標 2	社会人入学志願者の増加を目指す（※1）
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ①アドミッション・ポリシーの再確認 ②志願者の増加施策の検討 ③アドミッション・ポリシーに基づいた入試広報の拡充
今年度の達成状況	A（達成） ・ <input checked="" type="checkbox"/> B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	社会人志願者はいるが、さらなる志願者の増加対策のため、各専攻でホームページを充実させる。社会人志願者として入学した院生が充実したキャンパス・ライフを送っていることを知らせるなど、さらなる工夫が必要である。

※1 到達目標 2は、「志願者の増加を目指す」から「社会人入学志願者の増加を目指す」に変更

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標 3	FDの充実 (※2)
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	FDについて文学部と合同の会議を開催することはなかったが、文学部と同様に、FD委員が授業に関するアンケートを作り、それを実施した。
到達目標 4	『日本女子大学大学院紀要』の日本女子大学学術情報リポジトリへの掲載
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	今年度から『日本女子大学大学院紀要』を日本女子大学学術情報リポジトリへ掲載し、教員及び院生の研究成果の発表範囲を広めた。

※2 到達目標3「FDの充実」は追加

1. 内部質保証に関するプロセス

P：「人間社会研究科を考える会」での問題提起→専攻主任会での計画の策定

D：各専攻での議論を経て専攻主任会での決定→研究科委員会での決定→実施

C：「人間社会研究科を考える会」での実施状況の検討

A：各専攻での議論→「人間社会研究科を考える会」での問題提起

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	教育・研究成果等の可視化の充実を図る
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	7月28日開催の第1回「人間社会研究科を考える会」でこの件について検討した。研究科HPについては、以下の問題点が明らかになり広報課に改善を要望し、①～③については改善がなされた。 ① 各専攻ページの「専任教員（特別研究担当者）紹介」について、学部学科ページと同様に、研究者情報へリンクできるようにする ② 各専攻ページから、「大学院入試情報」へ直接リンクできるようにする ③ 大学公式ホームページTOP画面に表示されているひし形の各分野へのリンクについて、各研究科または大学院のカテゴリを追加していただく。あるいは、リンク先を「大学院入学案内」にしていただく ④ 本学ページが検索上位に表示されるよう、サイト設計（SEO対策）の検討を依頼する また、専攻の広報のための予算が現状ではつけにくいという問題点が明らかになり、研究科委員長会で問題提起した。この件については、その後社会福祉学専攻において、大学院広報予算を利用して広報用のビデオを作成してHPにアップすることができた。
到達目標 2	大学院学生の学習・研究に対する支援の充実を図る
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	昨年度の大学院総括運用費で大学院生用に導入した文献データベースソフトについて大学院生に実施したアンケート結果に基づいて、ソフトウェアについての講習会を、7月28日と8月4日の2度実施した。
到達目標 3	留学生の学習・研究に対する支援の方策を検討する
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	大学院総括運用費を利用して、留学生向けの論文作成講座を、9月1日から10月27日までの毎週木曜日、計8回にわたって実施した。
到達目標 4	社会人を対象とした志望者増の方策を検討する
対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1) キャリア開発とリカレント教育課程
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)

点検と今後の展望	<p>第1回の「人間社会研究科を考える会」において、教育学専攻で導入を検討している社会人向けコースについて、その構想を報告してもらい検討した。また、従来水曜日に設定されていた2月受験の大学院入試について、「人間社会研究科を考える会」での提案に基づいて、来年度から社会人にも受験しやすい土曜日に変更することを決定した。</p> <p>なお、9月募集の大学院入試については、昨年度の決定に基づき、従来の日程（金・土）を変更し土・日に実施した。</p> <p>第2回の「人間社会研究科を考える会」では、社会福祉学専攻で検討されている先取り履修制度の拡張について、構想を報告してもらいその可能性と課題について検討した。</p>
----------	---

1. 内部質保証に関するプロセス

P：従来の実績や将来の予測などをもとにして実施計画を作成する。

D：計画に沿って実施する。

C：実施された結果が計画に沿っているかどうかを評価する。

A：実施された結果が計画に沿っていない部分を調べて改善する。

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	専攻間の交流強化を意識した、大学院授業の分野横断的な研究指導体制の点検
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120 に向けての将来計画 1- 1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (2) 四つの科学系等（人間生活学系・人文科学系・社会科学系・自然科学系）の発展
今年度の達成状況	A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	総合演習や中間発表会等では相互乗り入れを実施しており、専攻間での分野横断的な指導が比較的活発に行われている。また、到達目標 4 の日韓三女子大学合同シンポジウムでは、他大学あるいは国際的な交流の場においても行っている。今後はこれらを継続する。語学やキャリア科目などの開設により、分野横断的な指導体制を形成できないか模索する。
到達目標 2	学修成果を反映した、奨学金評価制度の改革
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ⑨学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック
今年度の達成状況	A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	奨学金の返還免除制度において、分野間での評価法の統一や平均化を議論し、それに基づいて得られた方針を実施した。
到達目標 3	多様なICTを活用した大学院生への進路・就職情報発信および相談窓口の設置による研究生生活全般への支援強化
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援・生活支援・進路支援・留学支援など）の充実 ①学生が自発的に学習する支援体制の検討 ③障がいのある学生への学修支援体制整備 ⑤多様化する進路・就職に対する支援体制の強化
今年度の達成状況	A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	相談窓口については既に設置されており、就職情報等の情報発信も行っている。ITCを十分に活用することが今後の課題である。
到達目標 4	日韓三女子大学合同シンポジウムの継続・発展
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120 に向けての将来計画 1- 1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (5) 国際交流の推進
今年度の達成状況	A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	年を追うごとに本学から参加者が増え、韓国の梨花女子大学において英語による口頭発表及びポスター発表により、活発な議論や情報交換が行われている。学术交流という面で成果を上げているので、引き続き大学院生の参加を奨励する。
到達目標 5	理学部サマースクールや文京区科学特別教室などを継続し、地域社会と連携して、科学の啓蒙活動の推進

対応する中・長期計画の項目	<p>1. Vision120に向けての将来計画</p> <p>1-3 キャンパス計画 目白・西生田の両キャンパスを活用した教育研究環境の充実</p> <p>(2) 高度な研究を支える教育研究環境の整備</p> <p>2. 大学・大学院の教育研究計画</p> <p>(1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証</p> <p>⑧高大接続の充実</p>
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	毎年順調に行われており、好評である。今後も重要なイベントとして位置づけ、継続してゆく。

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標6	社会人入学制度改革の発信とそれによる大学院入学者の確保（教員や技術職として働いているOGに、積極的に情報発信をしていく）
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	社会人が大学院に入学し易くするために、前年度の博士課程後期入試制度に引き続き、博士後期前期についても改革を行った。この改革の実効性を見定め、必要があれば、実情により即した形に改定する。

II 事務局

自己点検・評価 部署名	学長室
-------------	-----

1. 内部質保証に関するプロセス

※内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスを可視化。
 ※すべての到達目標に同じプロセスを用いている場合は、以下の枠内に記載してください。

(各到達目標に個別に記載)

内部質保証：PDCAサイクル等の方法を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育・学習その他のサービスが一定水準にあることを大学自らの責任で説明・証明していく学内の恒常的・継続的プロセス

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	学長選考に関する規程の整備及び規程に基づく適切な運用を行う
対応する中・長期計画の項目	4. 管理運営 (1) 大学の理念・目的の実現に向けて、環境変化に対応した管理運営体制の構築
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	学長選考規程、学長選考規程実施規則を整備し、整備した規程に基づき学長選考の運用を行い、課題等を抽出の上、必要な議論を経て、次年度以降に継続対応する。
内部質保証に関するプロセス	P：学内諸規程の改定手続きを確認し、改正案を策定する。 D：学内手続きに則り関連諸規程の変更に関する手続きを実施する。 C：学長選考終了後に、課題の点検を行う。 A：未整備の課題及び修正が必要な課題について、検討するための準備をする。
到達目標 2	法人運営に関する規程の見直し・整備を行う
対応する中・長期計画の項目	4. 管理運営 (1) 大学の理念・目的の実現に向けて、環境変化に対応した管理運営体制の構築 ①ガバナンス体制の見直し ②法人組織と教学組織との役割及び権限の明確化 ③意思決定プロセスの明確化
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	常任理事会以外の法人運営に関する規程等は未整備であり、次年度の課題として継続対応する。
内部質保証に関するプロセス	P：法人運営に関する未整備の規程を確認する。 D：学長室会議及び常任理事会等、必要に応じた協議を経て規程を制定する。 C：規程に則った運営がなされているかを点検する。 A：課題を洗い出し、修正が必要な箇所を次年度の課題として継続対応する。
到達目標 3	IRを活用した法人運営に向けて検討を行う
対応する中・長期計画の項目	6. 計画推進等の体制 (3) IRを活用したマネージメント
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	学園活動評価・改革計画室による学内事務IR検討チームに参加し、IRデータの作成に着手した。必要な点検作業を経て、次年度以降へ継続する。
内部質保証に関するプロセス	P：学園活動評価・改革計画室と連携し、IRの活用について検討を行う。 D：検討チームでの議論を経てデータを収集し、IRデータ分析を具体的な帳票として作成する。 C：作成にあたってのデータ収集及び共有区分等について点検する。 A：検討事項を整理し、次年度検討チームに申し送る。

1. 内部質保証に関するプロセス

(各到達目標に個別に記載)

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	大規模地震及び災害に備えて、学園関係者への防火・防災に対する意識の更なる向上を図るとともに、マニュアルの整備、行政との連携強化の検討、防災備蓄品の充実等、防火・防災体制の整備及び事業継続計画の策定を進める
対応する中・長期計画の項目	4. 管理運営 (3) 危機管理体制の明確化 ①大規模自然災害への対応
2015年度の到達目標	到達目標 2
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	消防法に基づく防災訓練を実施した。併せて、防災訓練当日に学生対象安否確認テストを実施した。訓練では自衛消防隊の職員が防災に関する設備・機器類や備蓄食料品を实地確認し、災害時に対応できるよう職員の意識の向上を図った。また、文京区と協定している母子救護所開設についての他大学訓練を視察し、非常災害時の具体的な検討を行った。また、防災備蓄品について、学生の参加を得て非常食を選定し充実を図るとともに、計画的な入替を行った。 今後、多様な想定での訓練を継続し、教職員の防火・防災意識向上に努めていく。
内部質保証に関するプロセス	P：総務課、西生田総務課において、防災アドバイザーの指導に基づく防火・防災体制の整備推進。また、関係部局の協議により、防災備蓄品の管理計画を策定 D：防火管理者、自衛消防隊員との連携により防災訓練を実施。防災備蓄品の管理計画に基づき、備蓄品の更新・充実を実施 C：担当部局及び防火管理者により、実施内容を点検 A：未達の事項があれば、a年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上でb次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを実施
到達目標 2	学園の安全保持のため、警備体制の見直し・強化を図るとともに、関係部署間の対応体制を整備する。目白キャンパスにおいては、新しい目白キャンパス計画を踏まえて、セキュリティについて検討する
対応する中・長期計画の項目	4. 管理運営 (3) 危機管理体制の明確化 ③キャンパス統合を視野に入れたキャンパス内の安全の維持
2015年度の到達目標	到達目標 3
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	警備仕様の明確化、地元警察・消防との連絡・連携の再確認を行い、警備体制のいっそうの強化に努めた。 目白キャンパスでは、新しいキャンパス計画に対するセキュリティラインの設定や警備体制を、施設部門と検討していく。西生田キャンパスでは、大学移転に伴う警備体制の見直しを行い、残る附属中高の安全な学園環境維持の検討を行う。
内部質保証に関するプロセス	P：関係部局の協議により、警備体制の強化を計画。大学の移転統合計画を踏まえた各キャンパスの警備体制を立案 D：関係部局の連携により、警備体制を強化。目白の新キャンパス計画について、キャンパス構想部会での計画検討に反映 C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：点検結果を基に、a年度内に更に遂行

到達目標3	西生田キャンパスの水田記念公園を中心とした森の環境整備を行う
対応する中・長期計画の項目	1. 1.Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 教育改革・教育研究環境の充実を実現するためのキャンパス再整備 (2) 西生田キャンパスは郊外・森のキャンパスをキーワードとし、地域の宝である里山を中心とした自然環境を生かし先進的教育・研究の場としての検討を行う。
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	大学移転後を想定し、水田記念公園を含む周辺環境整備のための点検作業を開始している。今後は既に危険と思われる老木、立地条件の悪い樹木等整備していき、また、総合研究所研究課題にある「西生田キャンパスの森の再生と保全」のメンバーの意見を参考にしていながら保全計画・整備を行っていく。
内部質保証に関するプロセス	P：担当部局や総合研究所研究課題のグループとの協議を踏まえ森の環境整備計画を立案 D：樹木の状況による対応優先度に沿って伐採・手入れ等を実施 C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：点検結果を基に、年度内に更に遂行
到達目標4	行政や近隣大学・近隣地域との連携事業を促進し、地域に根ざした大学を目指すとともに、多様化する社会のリーダーとして学際的な問題意識に応えられる学生を育てる教育としての活動を継続する
対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 「自学自動」「自念自動」を実践する女子教育 (4) リーダーシップ・独創性・協力を発揮しうる女性の資質をのばす教育活動、研究活動、社会貢献活動 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制
2015年度の到達目標	到達目標4
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	大学・地域連携事業への参加、川崎市長が出席する区民車座集会への参加等を通し、西生田キャンパスの所在地である多摩区の現状を理解しつつ、今後の多摩区のまちづくりの様々な問題に対して理解を深めた。 今後引き続き、大学・地域連携事業への参加を継続しつつ、大学・地域連携事業のあり方の再検討を行っていく。
内部質保証に関するプロセス	P：西生田総務課が、多摩区・3大学連携協議会と協議して、具体的な連携事業参加策を立案 D：多摩区・3大学連携協議会の枠組の中で、地域貢献を実行 C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：点検結果を基に、b次年度に目標化
到達目標5	業務委託先の選定方法、発注方法の見直しを継続して行い、調達コストの最適化を図る
対応する中・長期計画の項目	5. 財政計画 (1) 教育研究の安定した遂行のための財政基盤の確立 ③人件費及び経費の抑制策の実現 (2) 適切な予算編成、予算執行
2015年度の到達目標	到達目標6
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	[目白] 次年度からの委託業務について、役務等調達管理細則に基づき、入札等により調達価格の低減を行った。また、役務の継続性や更なる減額を踏まえて複数年契約を交渉するなど、調達価格のいっそうの縮減を図った。 今後も、役務等調達管理細則に基づき、入札、企画提案型競争入札、見積合せにより、調達価格のいっそうの縮減を行う。

内部質保証に関するプロセス	P：各担当部局において、契約サイクル、発注時期、契約内容を再確認 D：役務等調達管理細則に基づき、業務委託先の選定、発注方法の見直しを実施 C：担当部局が行う点検を踏まえ、財務委員会で全体の状況を点検。その上で、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：点検結果を基に、a年度内に必要な事項を更に遂行
到達目標6	雇用に関わる法律の改正に伴い、関連する学内諸規程の整備を進めるとともに、適正な運用を行う
対応する中・長期計画の項目	4. 管理運営 (2) 明文化された規程に基づく管理運営の実施 ①関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	日本女子大学任期付教員に関する規程、年次有給休暇積立制度規程を制定した。出産・育児にかかる女性研究者のための研究支援員に関する規程、給与規程、専任教職員の年次有給休暇規則、長期欠勤・休職規程、育児・介護休業等に関する細則を改訂した。 さらに非正規雇用者（客員教員、非常勤講師、臨時勤務者）に関する規則の改訂案を作成中であり、今後、学内の承認手続き、教職員組合への意見聴取等を行う。
内部質保証に関するプロセス	P：法令に基づき、担当部局で諸規程の制定案、改正案を立案 D：常任理事会で決定し運用した。必要に応じ教職員組合と協議を実施 C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：未達の事項があれば、a年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上でb次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを実施
到達目標7	キャンパス一体化後の事務組織・体制を確立する
対応する中・長期計画の項目	4. 管理運営 (4) キャンパス一体化後の事務組織・体制の確立
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	キャンパス統合後の事務組織案についての検討を開始することとしたが、その前提として学生支援、管理運営に果たすべき職員の役割などを、管理職研修で協議した。今後、職員の役割意識の向上がさらに望まれる。
内部質保証に関するプロセス	P：組織ワーキングで、キャンパス統合後の統合後事務組織についての素案を立案 D：事務局会議（管理職）で協議し、組織案を検討 C：事務局会議（管理職）が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：点検結果を基に、次年度以降のスケジュールを修正し、事務体制案策定を推進
到達目標8	公式ホームページの内容充実を継続し、情報訴求力を高める
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ③アドミッション・ポリシーに基づいた入試広報の拡充 3. 一貫教育・生涯教育計画 (5) 学園一貫の広報活動の充実 4. 管理運営 (5) 広報体制の充実 ①ホームページの内容改善
2015年度の到達目標	到達目標7
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	トップページについて利便性向上の観点からデザイン調整を行うと同時に、キービジュアル動画の定期的更新により、サイト来訪者へイメージ向上を図った。受験生向け特設サイトについて、デザイン構成の見直し、特集コーナーへ、新規企画追加を行った。学部学科ページのデザインを全面的に改定し、志願者への訴求強化を進めた。災害等の緊急時対応ツイッターを導入するとともに、受験生向けツイッターを導入し受験生への訴求力強化を進めた。

内部質保証に関するプロセス	<p>P：広報WG（学長室プロジェクト）において、ホームページ刷新案を協議・策定</p> <p>D：広報WGと担当部局との連携により、ホームページ刷新と内容の充実を実施</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、広報WGで点検。その上で、自己点検法人委員会で点検内容を確認</p> <p>A：未達の事項があれば、a年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上でb次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを実施</p>
到達目標 9	プレスリリースの方法などを改め、情報発信力を向上させる
対応する中・長期計画の項目	<p>4. 管理運営</p> <p>(5) 広報体制の充実</p> <p>②プレスリリースの拡充</p>
2015年度の到達目標	到達目標 8
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	<p>プレスリリース支援ツールを利用してのリリース方法の改善を行うとともに、新聞社に定期的な情報提供を行い、WEB・新聞本紙に展開された。</p> <p>今後、社会の視点を意識し、更なる情報提供の充実を図る。</p>
内部質保証に関するプロセス	<p>P：担当部局において、プレスリリース改善案及びメディアとの関係強化策を策定</p> <p>D：広報WG（学長室プロジェクト）と担当部局の連携により、効果的なプレスリリースやメディア懇親会開催の検討を実施</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、広報WGで点検。その上で、自己点検法人委員会で点検内容を確認</p> <p>A：未達の事項があれば、a年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上で、b次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを実施</p>
到達目標 10	広報誌「学園ニュース」の誌面刷新を継続、学園全体へのPR力を高める
対応する中・長期計画の項目	<p>4. 管理運営</p> <p>(5) 広報体制の充実</p> <p>③学園ニュースの誌面見直し</p>
2015年度の到達目標	到達目標 9
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	<p>今年度は特集として国際交流や震災支援など、学園全体の自主的な活動を取り上げた。また、教科科目の一貫教育だけではない、本学の精神的な一貫性・自主性・積極性・対外的な活動性を広報した。</p> <p>今後は、在学生・卒業生の社会への発信力にさらに注目し、その活動を紹介することで、最終的に入試広報・120周年記念事業等につながるよう開かれた誌面を目指す。</p>
内部質保証に関するプロセス	<p>P：担当部局において、学園ニュース誌面刷新案を策定</p> <p>D：学園広報連絡会議（学長・理事長直轄）、各附属校園・大学各部局と広報担当部局との連携により、学内情報を共有。内容を充実</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、学園広報連絡会議及び広報WGで点検。その上で自己点検法人委員会で点検内容を確認</p> <p>A：未達の事項があれば、a年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上で、b次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを実施</p>

到達目標 11	大学案内を刷新する（制作手順・内容・構成など）
対応する中・長期計画の項目	<p>2. 大学・大学院の教育研究計画</p> <p>(2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開</p> <p>③アドミッション・ポリシーに基づいた入試広報の拡充</p> <p>4. 管理運営</p> <p>(5) 広報体制の充実</p>
2015年度の到達目標	

今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	コンセプトとデザインコンセプトを以下のとおり、刷新した。 ○コンセプト ・受験生に必要な情報に集中して文字情報を厳選し、文字数、ページ数の削減を図る。 ・本学が他大学に秀でている特色の一つとして、「就職支援」と「学生サポート」の充実を挙げ、これらをクローズアップし「自分らしい生き方が見つけられる大学」として表現する。 ・教育の特色、学部・学科の教育のねらいについても誌面の充実を図る。また、受験生と保護者を対象とした冊子として、この1冊で本学がわかり、統一感を持たせたものとする。 ○デザインコンセプトを見直し、日本女子大学らしさを示すものとして、伝統・知的でさわやか、清潔感、洗練され都会にある大学、きれいさなどを方向性とする。
内部質保証に関するプロセス	P：担当部局において、大学案内誌面刷新案を策定（企画提案型競争入札実施） D：広報WG・担当部局・学生記者との連携により、大学案内の内容や構成を刷新 C：担当部局が行う点検を踏まえ、広報WGで点検。その上で、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：発行は次年度になるが、未達の事項があれば、a年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上で、b次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを実施

3. その他（中・長期計画に該当項目のない到達目標）

到達目標 1 2	目白・大学地区において、継続して推進している廃棄物の削減及び廃棄物の分別の促進によるリサイクル率の向上、循環再生紙利用率の向上を更に目指すため、学園構成員の意識の向上を図る
2015年度の到達目標	到達目標 1 1
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	廃棄物のリサイクルについて様々な検討は行ったが、構成員の意識の徹底には至らなかった。なお、今後は、リサイクル、分別の徹底はもとより、ゴミ総量の縮減にも取り組んでいく。
内部質保証に関するプロセス	P：担当部局で、廃棄物に関する管理計画を立案 D：予算に基づき、適正な管理を実行 C：実績値、委託金額を元に担当部局が行う点検（数量的な分析を含む。）を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：未達の事項があれば、a年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上でb次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを実施
到達目標 1 3	キャンパス内樹木について、目白キャンパス計画を踏まえた管理・整備を図る
2015年度の到達目標	到達目標 1 2
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	費用の無駄が生じないよう、キャンパス整備に合わせた樹木の伐採・剪定を行った。次年度以降の管理について、専門知識を持つ業者を活用しキャンパスが移転する2020年度末までの複数年での管理計画を作成し、費用の削減も踏まえた効率的な樹木の管理・整備を図ることとする。
内部質保証に関するプロセス	P：担当部局で、キャンパス内樹木の管理計画を立案 D：予算に基づき、適正な管理を実行 C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：点検結果を基に、a年度内に更に遂行
到達目標 1 4	安全性の向上とバリアフリー化を図るため、目白通りの横断方法について管理部とともに行政と連携しながら検討を進める
2015年度の到達目標	

今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	管理部とともに東京都建設局道路管理部や東京都第六建設事務所と、キャンパス統合後の目白通り横断方法について既存歩道橋の扱いを含め協議を重ねた。近隣の町内会等とも情報共有し、横断歩道設置実現に向けて引き続き検討を進める
内部質保証に関するプロセス	P：歩道橋を落橋し、横断歩道を設置する計画を立案し、関係官庁と交渉 D：進捗状況に基づき、適正な交渉を推進 C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：点検結果を基に、a年度内に更に遂行
到達目標 1 5	マイナンバー制度を適正に運用する
2015年度の到達目標	到達目標 1 3
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	
内部質保証に関するプロセス	P：担当部局で、マイナンバーの収集、管理、利用の運用内規を策定 D：マイナンバーの収集、管理、利用を適正に推進 C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：点検結果を基に、規則、運用内規の見直しを実施
到達目標 1 6	Vision120に向けた職員の意識改革のための研修を実施する
2015年度の到達目標	到達目標 1 4
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	職員の研修の見直しを行い、職員研修規則、職員研修実施細則の改訂案を作成した。引き続き次年度当初からの運用を目指して改定手続きを行う予定
内部質保証に関するプロセス	P：担当部局で職員研修計画を立案 D：事務局会議を経て、職員研修を実施 C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：未達の事項があれば、a年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上でb次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを実施
到達目標 1 7	労働安全衛生向上のため、職員の時間外労働時間を抑制する
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	事務局管理職で事務局全体の時間外勤務の状況を共有するなど削減に努め、2016年4月～11月については、前年同期間と比べ約11%減となった。引き続き削減に努める。
内部質保証に関するプロセス	P：担当部局で時間外労働時間の削減計画を立案 D：事務局会議、管理職研修等で時間外勤務削減の啓発を実施 C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認 A：点検結果を基に、年度内に更に推進

1. 内部質保証に関するプロセス

(各到達目標に個別に記載)

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	創立120周年記念事業募金を含む金融資産の拡充を図る
対応する中・長期計画の項目	5. 財政計画 (1) 教育研究の安定した遂行のための財政基盤の確立 ①自己資金の充実
2015年度の到達目標	到達目標 5
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	昨年度3月より開始した創立120周年記念事業募金は、1月末日時点で申込総額が3億円を超えた。しかし、今年度予算額1億2千万円については達成しているものの、申し込みが鈍化しており、目標総額8億円の達成に向けてさらに募金活動を展開していく必要がある。金融資産残高は、1月末日時点の前年同月比で7億3千万円ほど増加しているが(帳簿ベース)、次年度以降は120周年記念事業の建設費の支払いにより減少が見込まれる。引き続き周年募金をはじめとする収入の獲得を図る一方で、入札の実施による調達金額の削減や費用の見直しによる金融資産の留保に努める必要がある。
内部質保証に関するプロセス	P: 過去取引実績に応じた法人寄付依頼準備、入札の実施等による調達金額の削減 D: 法人依頼を含む募金の実施、財務委員会による高額支出案件の個別協議 C: 募金申込状況の随時確認、1月末日現在の金融資産残高を前年同月と比較 A: 募金増額のための新たな施策を検討
到達目標 2	収支バランスのとれた予算編成と適正な執行を行う
対応する中・長期計画の項目	5. 財政計画 (1) 教育研究の安定した遂行のための財政基盤の確立 ②バランスの取れた収支 ③人件費及び経費の抑制策の実現 (2) 適切な予算編成、予算執行 ①事業活動収支収入超過予算編成 ②教育・研究改革推進のための経費の政策的な配分と検証
2015年度の到達目標	到達目標 6
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	複数年に亘る特定事業を含みつつ、収支均衡を継続して保つ必要がある。120周年記念事業が開始され支出も増加するため、より予算編成と執行について統制が必要である。
内部質保証に関するプロセス	P: 単年度の収支に影響を与える中長期の特定事業の収支を除き、事業活動収支が均衡を保つ財政計画を策定。 D: 財政計画に基づき、シーリングを伴う2017年度予算申請を実施。併せて2016年度予算執行状況を確認。 C: 2016年度執行状況と補正予算実施の不要確認及び2017年度予算申請額について、財務委員会にて協議 A: 理事会での予算承認
到達目標 3	わかりやすい財務情報を公開する
対応する中・長期計画の項目	6. 計画推進等の体制 (4) 情報の公表による説明責任遂行
2015年度の到達目標	到達目標 7
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)

点検と今後の展望	学校法人はその公共的性格から、広く一般の人や保護者等関係者の理解と支持を得るため、財務情報の公開は極めて重要である。学校法人会計基準改正後、計算書類や用語の変更が生じたが、他大学の会計報告等も参考にしながら、従前に比べよりわかりやすい情報の提供が必要である。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：監事の指摘を受け、財務比率の経年経過情報と新会計基準の用語解説の追記を計画</p> <p>D：理事会説明資料及びHP原稿案を作成</p> <p>C：財務委員会及び理事会での報告及び公開協議</p> <p>A：HP財務情報「学校法人会計基準の改正に伴う新しい計算書類と財務比率について」にて情報公開</p>

自己点検・評価 部署名	管理部
-------------	-----

1. 内部質保証に関するプロセス

(各到達目標に個別に記載)

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	目白キャンパス将来構想に基づく各種工事、建物等実施設計を推進する
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-3キャンパス計画 教育改革・教育研究環境の充実を実現するためのキャンパス再整備 (1) 目白キャンパスは都心・エコキャンパスをキーワードとし、歴史と伝統を誇る交流と知的創造の場、都心のオアシスを構築する。 ①目白キャンパス設計・工事
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	今年度は7回のキャンパス構想部会を開催し、実施設計に向けた協議を行った。実施設計及び施工を行う業者を企画提案型競争入札にて決定した。その後、設計者と学内関係者で協議を行い、基本設計をとりまとめた。 成瀬記念館分館移築についても、キャンパス構想部会の下に置かれたWGにおいて内容確認を行いつつ予定の工程どおり実施を進めた。
内部質保証に関するプロセス	P：キャンパス構想部会において方針の確認を行う D：理事会の方針決定にもとづき設計者へ指示を行う C：随時、進捗及び修正事項をキャンパス構想部会等を通じて学内へフィードバックする A：学内方針を設計者にフィードバックし、基本設計に反映させる
到達目標 2	教育・研究環境の充実のための情報（ICT）基盤の高度化を推進する
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-3キャンパス計画 教育改革・教育研究環境の充実を実現するためのキャンパス再整備 (1) 目白キャンパスは都心・エコキャンパスをキーワードとし、歴史と伝統を誇る交流と知的創造の場、都心のオアシスを構築する。 ①目白キャンパス設計・工事
2015年度の到達目標	到達目標 2
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	ICT設備の計画については計画的に実施することとしており、今年度は目白・西生田両キャンパスのコンピュータ演習室設備の更新、目白キャンパスLL設備の更新を行った。 また、Wi-Fiの拡充については順次進めている。
内部質保証に関するプロセス	P：システム企画課、施設課を中心にICTの中期計画を策定 D：毎年の予算に反映されたものについて実施する C：毎年利用状況、技術の進歩、運用及び調達コストの低減をモニタリングする A：最新の技術等を勘案し安全・安定な状態を維持できるよう必要な更新計画を再策定する
到達目標 3	障がい者対応を含む施設のアメニティ向上を行う
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実 ③障がいのある学生への修学支援体制整備
2015年度の到達目標	到達目標 3
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	学生対応部署等と相談しながら毎年改修箇所を検討している。今年度については九十年館A棟の中央外階段及びB棟屋内階段のノンスリップを改修し、視認性を高めた。

内部質保証に関するプロセス	P：障がい者対応部署、関係委員会等からの要請に基づき改善計画及び予算確保を行う D：毎年の予算に反映されたものについて実施する C：担当部署及び学生等利用者からの意見をモニタリングする A：関連法改正を意識しながら必要な改善計画を再策定する
到達目標4	計画的に耐震補強工事を実施する
対応する中・長期計画の項目	4. 管理運営 (3) 危機管理体制の明確化 ①大規模自然災害への対応
2015年度の到達目標	到達目標4
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	今年度は成瀬記念講堂について耐震設計作業を進めた。それに基づき、耐震工事の施工業者を入札によって決定した。 また、非構造部材の耐震化についても補助金を利用しながら推進しており、小学校の天井について実施した。 今後も学生等が利用する場所で耐震化工事の済んでいない建物について、予算の範囲内で耐震化工事を継続する。
内部質保証に関するプロセス	P：施設課において建物耐震計画を策定する D：予算に反映されたものについて耐震診断及び耐震改修を補助金を利用して実施する C：毎年建物利用状況を見直し建物耐震計画を見直す A：見直しに基づき建物耐震計画を中・長期計画に反映させる

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標5	研究費で購入する物品の検収内容の見直しを行う
2015年度の到達目標	到達目標9
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	毎回の不正防止計画推進部署会議において検収について課題確認を行っている。検収方法は教員に向けて文書及びイントラネットで公開するとともに研修会を開催し検収への意識高揚を進めている。
内部質保証に関するプロセス	P：不正防止計画推進部署会議において、検収方法の点検を行う D：新年度に配布する教員向け研究費予算の執行の手引に検収方法を明記する C：検収室において随時検収業務の点検を行うとともに、不正防止計画推進部署間で問題の共有を行う A：発見された問題について、不正防止計画推進部署会議で協議し検収方法の見直しを行う
到達目標6	JASMINEメールシステムの更新(クラウド化)を実施する
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	学内メール(JASMINEメール)について、Microsoft Exchangeと同等の機能を持つOffice365を利用したクラウド型メールシステムへ移行した。学内周知を徹底したことで大きなトラブルも発生しなかった。
内部質保証に関するプロセス	P：システム企画課においてメールシステムの更新計画を策定する D：利用者への情報提供を進めながら切り替えを実施する C：ヘルプデスク等への問い合わせ等をもとにシステムをモニタリングする A：トラブル発生時の影響が最小になるように管理体制を強化する
到達目標7	環境問題への取り組みを推進する
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)

点検と今後の展望	地球温暖化防止対策の一環として「省エネ推進ポスター」を作成することとした。ポスターデザインは学生から公募し、最優秀作を学内各所に掲示した。
内部質保証に関するプロセス	P：地球温暖化対策委員会において啓蒙方法を検討する D：ポスターの学内公募を行う C：ポスターによる効果をモニタリングする A：定期的にポスターを再検討する
到達目標 8	収益事業法人設立の検討を行う
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	収益事業法人の設立に向け、メリット、デメリットについて具体的な課題を検討した。収益事業法人の安定経営のための収支について、いくつかの試算を行った。継続した黒字化が見込まれる事業について他大学の状況も調査しながら検討を行っている。
内部質保証に関するプロセス	P：管理部において事業会社設立の課題のとりまとめを行い、財務委員会に報告する D：具体的な事業会社の形態を策定する C：営業収支について試算を行い、持続可能性について検証を行う A：問題点を解決する施策を検討し、再提案する
到達目標 9	中高校舎の建物設備について改修工事を実施する
2015年度の到達目標	到達目標 1 1
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	今年度は修繕計画に基づき理科棟の大規模改修を行った。財政計画に合わせた今後の修繕計画を年度ごとに検討する事としている。
内部質保証に関するプロセス	P：施設課において建物修繕計画を策定する D：予算に反映されたものについて修繕を実施する C：毎年予算額とのバランスを確認するとともに追加で発生する案件を検討する A：費用について財務委員会の承認を経ながら修繕計画を見直し、実施する

1. 内部質保証に関するプロセス

(各到達目標に個別に記載)

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	学園一貫教育研究集会のあり方、報告書について検証を行う
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (6) 特色ある一貫教育の実現 ②学園一貫教育研究集会報告書の検証
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	学校教育法施行規則の改正により、大学の3ポリシーについて公表が義務づけられた。今年度の学園一貫教育研究集会では、大学教員と附属校・園の教諭が、学園全体においてそれぞれの3ポリシーを共有することを目的に実施され、分科会は従来の12分科会から4分科会へと大きな変更があった。報告書については、様式を整え、全体として分かりやすく統一感があるものとした。今後も、引き続き学園一貫教育研究集会のあり方及び報告書について検証を行い、将来に向けて更に特色ある一貫教育の実現に努める。
内部質保証に関するプロセス	P：一貫教育推進会議において実施案を策定 D：学園一貫教育研究集会企画実行委員会において企画・実行 C：報告書を作成し、成果・課題等について検証 A：将来に向けての学園一貫教育のあり方について検討を継続
到達目標 2	学生の授業外での学修を支援するためのラーニング・コモンズ及びランゲージ・ラウンジの利用者の満足度を向上させるとともに、授業科目との連携を図り、利用者数の増加を図る
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 グローバル化した21世紀社会をリードする女性の育成 (1) 徹底した外国語教育 1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実 (1) 学生の主体的学びを涵養する教育研究環境の整備
2015年度の到達目標	(類似：到達目標 3)
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	授業外での学生の学修を支援する組織である泉ラーニング・スペース及びランゲージ・ラウンジの充実を図った。 ラーニング・コモンズについては、今年度、西生田キャンパスに泉ラーニング・スペースを新設するとともに、大学院学生を中心としたラーニング・サポーターの増員を図り、ピア・サポートの充実に努めた。次年度も一層の満足度の向上を図る。 ランゲージ・ラウンジについては、今年度、目白キャンパスでは利用者アンケートを実施した。結果を踏まえて次年度以降の運営に活かし、更なる利用者の満足度向上に努める。また、一部の授業との連携、国際交流課との共催によるイベント等により、昨年度より利用者数は増加した。西生田キャンパスでは、国際交流課との連携により、フランス人交換留学生によるカンパセーションパートナーを実施し、好評であったため、次年度は英語圏からの短期留学生による英会話パートナーの実施を検討している。また、5月に開催された学内教員によるイベントは60名を超える学生が参加し、たいへん盛況であった。

内部質保証に関するプロセス	<p>P：学修支援部会及びランゲージ・ラウンジ運営委員会において、学生の主体的・能動的学修の支援を推進する実施案を策定</p> <p>D：学修支援部会、ランゲージ・ラウンジ運営委員会による各到達目標の実施とその運営</p> <p>C：利用者アンケートによる課題の洗い出し、且つ教育目標との関連性の検証</p> <p>A：泉ラーニング・スペース及びランゲージ・ラウンジの運用形態・運営組織、教育目標・方法の支援の更なる改善</p>
到達目標3	東京都福祉保健局への「指定申請書」の提出、実地調査及び2017（平成29）年度保育士養成課程開設の準備を行う
対応する中・長期計画の項目	<p>2. 大学・大学院の教育研究計画</p> <p>(1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証</p> <p>①保育士養成課程の設置</p>
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	申請や実施に向けて齟齬がないよう、児童学科や教授会、委員会、部会、関係事務部署と連携をはかり、検討や確認を行った。次年度は、授業の実施状況や学生の履修を検証し、2年次以降のカリキュラムや実習実施に向けて準備を進める。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：保育士養成課程申請対応として、学内会議の手続き、入学広報及び学内施設・備品、学生指導計画等設置準備の計画や工程表を、児童学科、関係事務において策定</p> <p>D：「指定計画書」提出後の対応として、東京都によるヒアリング、「指定申請書」の提出、実地調査の対応を行う。決定が必要な事項については、その都度、教授会や常任理事会に了承</p> <p>C：児童学科との確認の他、教授会や各種委員会、教育研究改革部会等に検討の依頼や実施状況の報告</p> <p>A：次年度開設に向けて、時間割、実習室の準備、手引きの記載、各種書類の見直し、4年間の年次計画や新旧の移行措置等の確認を行い、実施に向けての計画を立案</p>
到達目標4	キャンパス一体化に向けた教職課程運営体制を検討する
対応する中・長期計画の項目	<p>2. 大学・大学院の教育研究計画</p> <p>(1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証</p> <p>②教職課程カリキュラム及び運営体制の見直し</p>
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	今年度は全学的な資格とともに教職課程の運営体制の大枠の案を作成したが、次年度は委員会体制、実習指導体制やセンター、指導室等教職課程の具体的な体制の検討を行い、現行委員会とも連携しながら検討を進める。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：大学改革委員会の下におかれた資格課程分科会において、キャンパス統合後の全学的な資格課程の運営とともに、教職課程の委員会、センター、指導室等の運営方針・体制（組織）の検討計画の策定</p> <p>D：資格課程分科会において、現行の委員や他の資格の委員の意見も取り入れつつ、全学的な資格課程委員会、教職課程委員会、教職センター、指導室等の体制図の検討を行い、作成</p> <p>C：資格課程分科会により現行の両地区教職課程委員長や他の資格の専門委員に配布、確認。資格課程の体制図について、報告書とともに大学改革委員会に提出。大学改革委員会にて確認</p> <p>A：次年度に向けて、教職課程の具体的な検討課題の洗い出し</p>

到達目標 5	現在実施している附属高等学校・大学の連携の拡充を計画・実施する
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ⑧ 高大接続の充実
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A（達成） ・ <input checked="" type="checkbox"/> B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	今年度は、教育研究改革部会の下に設置された高大接続ワーキング・グループ（高校教諭・大学教員・事務職員）が中心となり、新たな高大接続の施策を実施した。 高大接続ワーキング・グループにおいて、留学準備プログラム及び春季セミナーの実施・運営計画、参加人数、周知方法、受講者調査、担当者調査に基づき、今年度に実施・計画した高大接続の事業を検証した。 今年度に実施した留学準備プログラム及び春季セミナーに関しては、上記の点検・検証を次年度の企画・運営計画に反映させる。 附属高等学校生徒を対象とした先取り履修制度に関しては、次年度に関連規程の一部改正及び各種の学内手続き・周知活動を行い、平成30年度からの受け入れの整備を行う予定である。
内部質保証に関するプロセス	P：教育研究改革部会の下に、高大接続ワーキング・グループを設置し、附属高等学校と大学の連携事業方針・計画を策定。教育研究改革部会にて実施計画案を承認 D：附属高等学校と大学の連携事業実施及び検討 C：附属高等学校と大学による連携事業の検証 生徒・保護者及び附属高等学校からの要望を分析 A：附属高等学校と大学による連携事業の改善 各高大接続事業の課題及び改善点を整理・検討し、次年度の企画・計画に反映させる。
到達目標 6	アドミッション・ポリシーの見直しを行う
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ① アドミッション・ポリシーの再確認
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A（達成） ・ <input checked="" type="checkbox"/> B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」に基づいての3ポリシー見直しは、アドミッション・ポリシーを含む全てについて、下記プロセスに記載のとおり各学部・学科毎を含めて学部・大学院とも全学的に行うことができた。3ポリシーについては今後、目標設定に関わりなく継続的にPDCAを実施することになる。それとは別に「アドミッション・ポリシーの見直し」については、到達目標6を単独で継続するのではなく、今後具体的な検討を行う到達目標7に含めて、入学者選抜方法の検討事項の一つとして改めて採り上げられることとなる。
内部質保証に関するプロセス	P：学部長会で見直しのスケジュールを確認（大学院のポリシーについては研究科委員長会において確認） D：学部長会で見直し方針を確定し、大学全体の見直し（人材養成・教育研究上の目的を含む）を実施。教授会での周知を経て、学部単位で見直しを実施 C：一度見直し案を集約し、学部長会で結果を検証したうえで、再度学部・学科で見直しを実施 A：学部長会で再度見直しをしたポリシーを確認したうえで、学部・学科へ周知
到達目標 7	入試データの検証・分析により新たな入学者選抜方法を検討する
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ② 志願者の増加施策の検討
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A（達成） ・ <input checked="" type="checkbox"/> B（継続） ・ C（内容の見直し）

点検と今後の展望	センター試験利用入試（後期募集）の新規実施や、推薦入試導入、既存の入学者選抜方法の一部変更等、常に具体的な動きは起きているが、今般の高大接続改革に直結したかたちでの「大学全体としての大学入学者選抜の在り方の検証」は次年度以降に具体的に取り組むこととなる。担当課においては、現在も他大学の入学者選抜方法の情報を収集しており、今後の学内での取り組みに資することを目標としている。
内部質保証に関するプロセス	P：成績追跡調査にかかる学科への提供データの一部変更を入学委員会で協議 D：公式GPAを活用した成績追跡調査データを各学科へ提供 C：各学科は次年度以降の入試について検討。入学委員会より次年度入試について調査 A：特に最近導入した入試を中心に、効果（志願状況、入試種類別成績追跡等）のモニタリングを継続する
到達目標 8	オープンキャンパスの効果的・効率的な運営を行い、来場者の満足度を向上させる
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	「達成」の意味は、取り組もうと予定していたことに取り組めたということであり、満足度を高めるための取り組みそのものは今後も継続する。志願者増加施策としては、オープンキャンパスに限定せず、それ以外の各入試広報活動の工夫・充実も必要で、いずれも継続的に取り組む。
内部質保証に関するプロセス	P：昨年度中に実施案を策定し、入学委員会での協議を経て、各学科等に調査 D：承認された実施案に加えて、広報ワーキングでの検討を経て「人間社会学部での予備校講師による入試問題解説」等、新規企画も追加した。 C：8月オープンキャンパスで、外部機関への委託により、覆面調査を受けて評価結果を得た。 A：通常の来場者アンケートの他に、外部評価なども受けたことを活かして、次年度企画検討を行うことができた。なお、次年度からは、来場者の個人情報取得も行う予定
到達目標 9	障がい学生への履修登録、授業の受講、定期試験の実施など、障がい学生の履修全般における合理的配慮の対応事例をまとめる
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実 ③障がいのある学生への学修支援体制整備
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A（達成） ・ <input checked="" type="checkbox"/> B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	学生支援ネットワーク等において、障がい学生への学修支援内容及び体制について、意見交換を行い、問題点や課題を確認し、検証を行う。対応事例については、整理・記録し、学生支援ネットワークや学科への情報提供等次年度以降の支援に活かす。
内部質保証に関するプロセス	P：障がい学生支援委員会の対象学生への学修支援の内容・実施計画の確認 D：学科や学生課、授業担当者と連携し、障がい学生の学修支援の実施。実施内容について記録 C：学生支援ネットワーク等において、障がい学生への学修支援の振り返り、検証、問題点、課題の整理、情報収集 A：学生支援ネットワークにて連携をはかり、次年度の支援体制の改善をはかる。

3. その他（中・長期計画に該当項目のない到達目標）

到達目標 10	公的研究費の適正な使用にかかる実質的な取り組みを履行する
2015年度の到達目標	到達目標 7
今年度の達成状況	A（達成） ・ <input checked="" type="checkbox"/> B（継続） ・ C（内容の見直し）

点検と今後の展望	コンプライアンス教育の充実、誓約書の徴収や内部監査によるモニタリングを実施し、不正防止に努めた。 今後についても引き続き、文部科学省「研究活動における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づき、不正防止策の一層の強化を図る。
内部質保証に関するプロセス	P：大学が組織として不正使用の防止に関わり、不正使用が起こりにくい環境がつけられるよう対応の強化 D：科学研究における不正使用防止のためのコンプライアンス教育の実施、内部監査の充実 C：コンプライアンス教育のアンケート実施による理解の把握及び課題の洗い出し、内部監査によるモニタリング結果分析 A：大学関係研究費を含めた研究費の適正な使用に向けた取り組みの改善
到達目標 1 1	研究活動における不正行為に対する関係者の意識浸透を図る取り組みを履行する
2015年度の到達目標	到達目標 8
今年度の達成状況	A（達成） ・ <input checked="" type="checkbox"/> B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく取組状況に係るチェックリストにおける未整備課題について、体制を整備した。また、コンプライアンス・研究倫理教育として、全専任教員、競争的資金の交付を受けている（又は、応募中）研究員を対象として、日本学術振興会が開発した「研究倫理 eラーニングコース」を実施し、修了証書の提出を義務づけた。 今後についても引き続き、当該ガイドラインの趣旨を研究者に浸透させる様々な方策を検討する。更に、大学院生に対する倫理教育のあり方を検討する。
内部質保証に関するプロセス	P：大学が組織として不正行為の防止に関わり、不正行為が起こりにくい環境がつけられるよう対応の強化 D：体制の整備及び研究倫理教育の実施 C：今後の課題の洗い出し A：倫理教育の改善

1. 内部質保証に関するプロセス

(各到達目標に個別に記載)

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	協定・認定大学留学する学生数増を目指し、新しい留学制度・奨学金制度を2017年度から導入するための準備を行う
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (5) 国際交流の推進 ①留学希望者への支援のあり方の検討 2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ②留学制度等の充実 ⑥協定・認定大学留学制度等の整備
2015年度の到達目標	到達目標 4
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	新しい留学制度は前倒しで今年度より導入した。ただし、いまだ学生・教職員の認知度が低いため、今後は学生に加え、教職員への説明会等も実施を予定している。また、新しい奨学金制度については、2017年度出願者からの適用のための準備は整えた。今後は留学制度と共に周知活動に努める。
内部質保証に関するプロセス	P：新しい留学制度・奨学金制度導入のための手続き及び周知の計画を立案する。 D：国際交流委員会、教授会の審議を経て、新しい留学制度は今年度出願より募集を開始した。2016年7月末には、学生向け留学説明会を実施した。新奨学金制度は規程・内規を整えた。 C：新しい留学制度については、まだ認知度が低く、留学学生増にはつながっていない。また、休学時の在籍料が急遽導入されたため、認定大学留学で5年在籍になるケースにおいては、大学から奨学金を給付するにもかかわらず、学生の経済的負担は休学留学より重くなることが判明している。 A：今後、新しい留学制度・奨学金制度を、学生及び教職員への説明会やHP等で広く周知する。同時に学生、教職員、協力外部団体等から、新しい制度に関する意見を収集する。特に休学留学の動向には注視する。次年度以降の留学学生数や質の問題を分析する。休学留学との比較等も実施する。
到達目標 2	外国人留学生の募集広報に積極的に参加し、受入人数を増やす。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (5) 国際交流の推進 ②受け入れ体制の強化 2. 大学・大学院の教育研究計画 (3) 国際化に向けた対応 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実
2015年度の到達目標	到達目標 6
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	外国人留学生の募集広報のために、ミャンマーでの大学説明会や日本語学校廻りを、教員と協力の上、実施した。しかしながら今年度は結果として目立った人数増にまでは至っていない。効果が現れるにはある程度の時間と、継続的な努力が必要と思われるため、今後も国内の日本語学校訪問や海外の留学フェア参加等、留学生の入試広報に協力していく。

内部質保証に関するプロセス	<p>P：国内では、本学の留学生の出身校、また、優秀な日本語学校をリストアップし、教員と訪問。海外では、教員と入学課と連携し、ミャンマー元日本留学生協会（MAJA）を訪問。各々、留学生の現状についてのヒアリングと本学のPRを行う。</p> <p>D：食物学科のベトナム人留学生向け奨学金策定に協力し、これを一つの材料として、国内では大学全体のPRのために日本語学校を訪問した。国際交流委員会では、この情報をもとに特別入試制度、保証人やHPについて改善提案を策定し、入学委員会、学務部、広報課に各々提出した。</p> <p>ミャンマーではMAJAとの覚書締結、模擬講義と大学紹介を実施し、日本大使館や留学コーディネイター、ヤンゴン外国語大学、ヤンゴン大学を訪問し、今後の留学生リクルートや交流の礎を築いた。</p> <p>C：今年度、志願者数としては大幅な増には至らなかった。国際交流委員会より提出した次年度以降の外国人留学生入学試験等にかかわる改善提案については、入学委員会からは今年度は見送りの回答を受け取り、その他は関係各署で検討中である。</p> <p>A：日本語学校や海外の協力団体（MAJA等）を継続的に訪問することにより、信頼関係を築き、留学生獲得のために本学をPRしていく。ベトナム人留学生向け奨学金についても、海外でのPRも可能になるよう、英語版の情報を作成する。</p>
到達目標 3	障がいのある学生への支援について、修学支援・サポートを継続的かつ適切に進める。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実 ③障がいのある学生への修学支援体制整備
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A（達成） ・ B （継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	本学における修学支援は継続して適切に実施した。さらに4月の差別解消法施行を受け、学園全体の支援方針と支援体制を決定した。今後引き続き全学的な情報共有を進めていく。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：大学の新規及び継続の支援を進めると同時に、学園全体の障がい学生等支援体制構築について前期中に承認を得る。</p> <p>D：学園全体の支援体制についても、障がい学生支援委員会を中心に検討を行い、法人担当理事との調整等、決定への手続を進めた。</p> <p>C：7月に日本女子大学障がい学生等支援体制が常任理事会で決定され、学内報により学長・理事長名の周知により、学園全体の理解を深めた。今後さらなる連携強化に向け検討を継続する。</p> <p>A：附属各校園や附属機関での支援についても、全学的方針を共有しながら適切な支援を実施できるよう進める必要がある。</p>
到達目標 4	目白寮について、現寮舎の今後の運営、運用の決定に向けた計画を策定する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実 ④新たな学寮のあり方についての検討
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A（達成） ・ B （継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	潜心寮・泉山寮の2019年度休寮とリノベーション工事による2020年度からの新たな運用方針について学内決定がなされた。今後の具体的な運営については学寮委員会及び法人との手続の他、受験生、在寮生が混乱しないよう適切な情報提供を早期に行う必要がある。

内部質保証に関するプロセス	<p>P：現寮舎の今後の運用方針決定に向け学寮委員会及び学生生活部長を中心に検討を進める。</p> <p>D：学寮委員会、学生生活部長より休寮後の運用について学長・理事長宛に検討依頼を行った。</p> <p>C：休寮後はリノベーション工事により新たな寮運用を行うとの理事会決定を受け、代替寮等対応の方向性は決定できた。学寮委員会における今後の検討事項を確認した。</p> <p>A：代替寮及びその後の新寮移行については検討途上にあるため、早期に必要な各種手続を完了、決定し、新年度できるだけ早い段階で受験生へ住まいの情報公開ができるよう進める。</p>
到達目標5	各種就職ガイダンス・ワークショップの内容を精査し、体験型プログラムを組み込む等により学生の就職活動を支援する。
対応する中・長期計画の項目	<p>2. 大学・大学院の教育研究計画</p> <p>(4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実</p> <p>⑤多様化する進路・就職に対する支援体制の強化</p>
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	テーマ別（全5テーマ）ワークショップを9月から段階を追って実施した。また、11～12月に複数回、企業の人事採用担当者を招聘し、特別ワークショップを開催した。学生の就職活動に対するスタンス・進捗状況の二極化が進む中、今後はその内容・実施時期を再考する必要がある。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：学生の動向・ニーズを個別相談内容やガイダンスアンケート等から収集し、支援内容に反映する。</p> <p>D：テーマ別ワークショップについて、9月から開始したが、初期のテーマ（職種・業界・企業の研究方法、自己分析）を、学生の進捗状況に合わせて1・2月にも実施した。また、企業の人事採用担当者を招聘し、特別ワークショップを開催した。</p> <p>C：ガイダンス・ワークショップの実施実績を関係委員会に報告した。また、学生アンケートから、そのニーズを分析した。</p> <p>A：今年度の状況を踏まえて、全体ガイダンス以外の職種・業種を特化したガイダンスについて実施計画を立てる。</p>

3. その他（中・長期計画に該当項目のない到達目標）

到達目標6	保護者向け就職関連情報の発信を強化する。
2015年度の到達目標	到達目標7
今年度の達成状況	A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	泉会総会・学園祭で在学生の保護者を対象として、就職説明会を実施した。次年度も引き続き実施予定である。また、本学ホームページに保護者向けの就職に関するQ&Aを掲載した。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：本学学生の就職状況の特色、企業等採用側の本学学生へのニーズ（どのような人材が求められているか）を分析する。</p> <p>D：上記内容を反映して、泉会総会では説明会と個別相談会を、学園祭では説明会を実施した。</p> <p>C：泉会役員・学園祭説明会参加者の意見を聴取し、内容を再考する。</p> <p>A：内容を精査し、次年度も説明会を実施する。特に泉会総会では時間も20分と限られるため、テーマを限定して内容を充実させる。</p>

1. 内部質保証に関するプロセス

(各到達目標に個別に記載)

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	2016年度正科生入学者200名以上を確保する。そのために必要な広報の拡充を図る
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針 (アドミッション・ポリシー) による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	正科生入学者は、目標値200名を突破し、今年度の目標は達成した。次年度に向けて更なる入学者確保に努める。新しいプログラムの広報として各学科のチラシ作成を行った。今後は、周知の方法について、ホームページの充実も含めて検討する。
内部質保証に関するプロセス	P : 通信教育課程改革推進WGを中心に教職協働で検討 D : 新たな資格の申請・認可業務。チラシ作成、その後積極的な広報活動を全身体制で実施 C : 入学者数の確認。改革推進WGを中心に増加施策の検討 A : 更なる学生増に向け、ホームページの改訂、出願期間見直しなどの実施
到達目標 2	学習の進まない学生や除籍・退学希望者の現状を把握し、在学生の満足度及び定着率を上げるための支援の方策を検討し、実施する
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援 (学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など) の充実
2015年度の到達目標	到達目標 3
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	退学・除籍が見込まれる学生に事前に連絡し、学修の継続を促す働きかけをした結果、退学者の減少につながっている。今後は、履修状況を把握し、教職協働で学修支援を行う。
内部質保証に関するプロセス	P : 該当学生に事前に連絡 D : 学生への事情聴取や相談のうえ、継続の促し C : 支援方法の検証 A : 教職協働での支援体制の構築、実施
到達目標 3	教育の質保証に向けて学修過程等の現状を把握し、可視化を進める
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー) の実施と教育の質保証 ⑨学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック
2015年度の到達目標	到達目標 1
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	学生データの確認、レポート成績・科目修了試験の実態把握を行った。今後、システムの変更に伴い、その活用について検討する。
内部質保証に関するプロセス	P : 学修過程の把握 D : 各データの作成 C : 実態把握 A : 新システムの利用検討
到達目標 4	リカレント教育課程において、企業との連携による講座を開講することにより、新たな学習機会の提供と再就職支援の強化を行う

対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1) キャリア開発とリカレント教育課程
2015年度の到達目標	到達目標4
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	一般社団法人中高年齢者雇用福祉協会 (JADA) との連携による「キャリアマネジメント」開講、合同会社西友との共催による「セルフリーダーシップ・プログラム」開催、大同生命保険株式会社寄付講座による「女性活躍」開講等により、多彩な講師陣によるアクティブ・ラーニングを実現し、受講生は今後のキャリアの可能性について具体的にイメージし、再就職活動への準備を行うことができた。今後は再就職に向けたインターンシッププログラムの更なる開拓を進める予定である。
内部質保証に関するプロセス	PD: 「リカレント教育委員会」における科目実施計画策定の準備及び実施 CA: 「リカレント教育委員会」に設ける「ステークホルダーとの意見交換」において、連携企業と打ち合わせを実施し、点検・評価、改善を行う
到達目標5	在学生向けに正課外として開講しているキャリア支援講座 (資格取得・語学・就職活動支援) において、講座の見直しや学習奨励を目的とした受講料優遇等を実施することにより、資格取得や語学力向上といった学生支援につなげる
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援 (学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など) の充実 ⑤多様化する進路・就職に対する支援体制の強化
2015年度の到達目標	到達目標5
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	「旅行業務取扱管理者対策講座」について「総合旅行業務取扱管理者」の全国平均合格率約12%のところ、本学合格率は約78%と昨年度を大幅に上回る高い合格率を上げた。また、「TOEIC®スタート講座」においても出席率と成績による受講料返還制度を実施し、基準点 (550点) を超えた者が昨年度の5名から7名に増加した。今後は更なる学生支援のための講座の検討や見直しを行う予定である。
内部質保証に関するプロセス	P: 「公開講座プログラム委員会」において、講座の企画計画を策定 D: 生涯学習センターの計画に基づき講座を実施 C: 受講生アンケート結果や資格取得状況をもとに、講座内容の点検・評価を実施する。 A: 生涯学習センター運用委員会において、改善提案を検討
到達目標6	公開講座事業において、文京区及び川崎市との連携を強化し、多様な形態の講座の提供を通じて大学の研究成果を地域社会に還元する
対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制
2015年度の到達目標	到達目標6
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	文京区アカデミア講座への講座提供を通じ、本学の研究成果を地域の方々に還元した。今年度は文京区からの要請を受け「外国人おもてなし英会話講座」を開講し、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けたボランティア育成事業への連携を行った。 川崎市教育委員会連携講座へ西生田キャンパスの自然環境を生かした子ども向け講座や、附属中学教員による子ども向け講座を提供し、地域貢献に努めた。
内部質保証に関するプロセス	P: 「公開講座プログラム委員会」において、講座の企画計画を策定 D: 生涯学習センターの計画に基づき講座を実施 C: 受講生アンケート結果や資格取得状況をもとに、講座内容の点検・評価を実施 A: 生涯学習センター運用委員会において、改善提案を検討、審議
到達目標7	リカレント教育課程については、カリキュラムや課程制度の点検・改善、再就職支援の向上を図るとともに、取り組みを周知する活動を展開する

対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制
2015年度の到達目標	到達目標 7
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 修了生のほぼ百パーセントの就職率を維持、授業の更なる質の向上を目指し、文部科学省「職業実践力育成プログラム (BP)」認定講座、厚生労働省「専門実践教育訓練講座」指定講座として56名の受講生を迎え、双方向型や企業連携型など多様な学びの機会を提供した。内閣官房主催意見交換会への出席や文部科学省、厚生労働省の視察を通して、本学における女性の学び直しと再就職状況の広報に努めた。
内部質保証に関するプロセス	<p>PD: 「リカレント教育委員会」における課程制度、カリキュラム、再就職支援の実施計画策定の準備及び実施</p> <p>CA: 修了時アンケートや2期目面談による意見の吸い上げや講師懇談会の実施により、制度の点検を実施</p>

1. 内部質保証に関するプロセス

(各到達目標に個別に記載)

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	自己点検・評価責任部局として、各機関が中・長期計画の各項目に対する年度の到達目標を設定し、年度末に報告書を作成することで進捗状況を可視化できるようにする
対応する中・長期計画の項目	6. 計画推進等の体制 理事長・学長のリーダーシップのもと、中・長期計画を推進する。 (1) 中・長期計画の実施体制、責任主体 ①年度ごとの計画の進捗状況の確認と見直し
2015年度の到達目標	到達目標 1
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	中・長期計画について、昨年度までの実施状況を踏まえて目標策定が行えるように、達成状況についての一覧表を作成し、各部局の目標が、中・長期計画の中でどこにあたるのか、また、学園全体での位置づけや他部局とのすりあわせがしやすいようにした。また、現在の中・長期計画設定から5年後(2018年度)に全体を見直し、必要に応じて修正、2019年度から修正した内容で実施することになるが、そのためにも中・長期計画の実施について進捗状況の把握が必要なため、引き続き、情報共有が可能なように進捗状況の可視化に努める。
内部質保証に関するプロセス	P：自己点検・評価委員会から今年度の到達目標策定を依頼し、各機関で到達目標を策定する 今年度の到達目標について、昨年度第6回自己点検・評価委員会において承認された「2016年度自己点検・評価の基本方針及び実施基準」に基づき、各機関に中・長期計画を踏まえて到達目標を策定するように依頼し、各部局から提出された到達目標策定シートを自己点検・評価の3委員会できりまとめた。 D：各機関において、到達目標の達成に向けた活動を行う とりまとめた今年度到達目標について、中・長期計画での位置づけを可視化し、自己点検・評価委員会において年度末の報告書提出を示唆しながら、各部局に目標達成に向けた活動の実施を推進した。 C：各機関での到達目標の達成度を自己点検し、自己点検・評価委員会において中・長期計画の進捗状況についてチェックする 昨年度の自己点検・評価について、中・長期計画での目標の位置づけや、他部局とのすり合わせ等、点検・評価や次年度目標策定が行いやすいような一覧表や資料を作成し、提示した。自己点検・評価委員会において承認後、学園活動評価・改革計画室HP(イントラ)で公表した。 また、今年度自己点検・評価については、各部局から提出された自己点検・評価について、自己点検・評価の3委員会できりまとめて原案とし、中・長期計画での位置づけを明確にした上で、次年度自己点検・評価委員会において承認する。 A：各機関で自己点検の結果に基づき、改善方策を含む次年度の到達目標策定を行う 中・長期計画の5年後の見直しを見据え、昨年度までの到達目標点検結果について一覧表を提示することによって、今年度到達目標の策定を行った。同様に、今年度の点検・評価を一覧表に追加して学内で共有しながら、次年度の到達目標策定を実施する。
到達目標 2	自己点検・評価委員会は、各機関における中・長期計画に基づく今年度の到達目標策定と年度末における点検・評価を推進する
対応する中・長期計画の項目	6. 計画推進等の体制 (2) 中・長期計画の実施に対する点検・評価体制 ①中・長期計画を遂行するための各年度のプラン作成と点検・評価
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	中・長期計画に基づく目標策定及び点検については、対応の一覧表等により、可視化し、情報共有を推進した。次年度からは、各自己点検・評価組織による点検・評価体制を刷新するため、中・長期計画に該当しない到達目標との調整も推進する。

内部質保証に関するプロセス	<p>P：自己点検・評価委員会において自己点検・評価の基本方針、実施基準等を策定し、各機関は中・長期計画に基づき今年度の到達目標を策定する 今年度の到達目標について、昨年度第6回自己点検・評価委員会において承認された「2016年度自己点検・評価の基本方針及び実施基準」に基づき、各機関に到達目標策定を依頼し、各部局から提出された到達目標策定シートを自己点検・評価の3委員会できとりまとめ、第1回自己点検・評価委員会において承認後、学園活動評価・改革計画室HP（イントラ）で公表した。</p> <p>D：各機関において、到達目標の達成に向けた活動を行う 今年度の到達目標について、中・長期計画での位置づけを可視化し、自己点検・評価委員会において年度末の報告書提出を示唆しながら、各部局に目標達成に向けた活動の実施を推進した。（各部局の活動内容の詳細については次年度に作成する報告書参照。）</p> <p>C：各機関において到達目標の達成状況を自己点検し、自己点検教学委員会及び自己点検法人委員会は各機関から報告された自己点検及び改善状況についての評価を自己点検・評価委員会に報告する 昨年度自己点検・評価について、中・長期計画での目標の位置づけや、他部局とのすり合わせ等、点検・評価や次年度目標策定が行いやすいような一覧表や資料を作成し、第1回自己点検・評価委員会において「2015年度自己点検・評価報告書」として承認された。今年度自己点検・評価については、昨年度同様に行う予定である。次年度から自己点検・評価体制を一部変更するため、「到達目標策定シート」及び「到達目標点検シート」の様式等について刷新し、各部局の自己点検・評価及び改善状況について、PDCAサイクルを明確にし、自己点検・評価委員会に報告される仕組みとした。</p> <p>A：自己点検・評価委員会において、自己点検教学委員会及び自己点検法人委員会から報告された点検評価結果に基づく改善提言を行う 昨年度自己点検・評価について、自己点検・評価委員会は、自己点検・評価報告書作成過程で、中・長期計画の進捗状況を提示し、部局間の調整を促しながら、今年度目標策定について推進し、改善方策を示唆した。</p>
到達目標3	大学基準協会に提出する「改善報告書」について最終調整を行い、提出する
対応する中・長期計画の項目	6. 計画推進等の体制 (2) 中・長期計画の実施に対する点検・評価体制 ③大学基準協会による認証評価の受審
2015年度の到達目標	到達目標2
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	昨年度に引き続き、公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）結果（2013年3月8日付）の提言に対し、特に、内部質保証を確立するための点検・評価体制の確立と、それに伴う規則の改正を自己点検・評価委員会において行い、7月末に改善報告書を提出した。改善報告書提出後は、自己点検教学委員会及び自己点検法人委員会での検討を経て、次年度から導入する体制のもとの自己点検・評価の方法について協議を行った。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：自己点検・評価委員会において、大学基準協会による認証評価受審結果「努力課題」「改善勧告」について、本学の対応方針を策定する 第1回自己点検・評価委員会において、工程表を提示し、大学基準協会から指摘されている努力課題及び改善勧告について対応を検討した。</p> <p>D：2015年度自己点検・評価委員会における学長提言に基づき「改善報告書」の内容を確認し、担当部局における改善実行を推進する 昨年度第5回自己点検・評価委員会において提示された学長提言を基に、担当部局からの改善報告書記載内容の見直しを行いながら、改善実行を推進した。特に内部質保証のシステムの構築については、自己点検・評価規則の改正、全学的自己点検・評価を組織的に行えるような体制づくりを行った。</p> <p>C：自己点検・評価の組織において、「改善報告書」の内容について点検する 第1回自己点検・評価委員会において提示された工程表に基づき、自己点検教学委員会、自己点検法人委員会で記載内容の点検を行い、自己点検・評価委員会において検討を行った。自己点検・評価委員会における主な審議内容は以下のとおり。</p> <p>A：大学基準協会に提出する「改善報告書」の最終調整を行う 自己点検・評価委員会で、改善報告書の一部修正について最終確認を行い、7月27日付（日女大第163号）で大学基準協会に提出した。</p>
到達目標4	「教学比較IRコモンズ」参加を通して、本学での教学IRの活用を推進する
対応する中・長期計画の項目	6. 計画推進等の体制 (3) IRを活用したマネージメント
2015年度の到達目標	到達目標3
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)

点検と今後の展望	<p>9月に教学比較IRコモンズ参加に関する覚書を締結し、11月に学生への調査を実施した。また、教学比較IRコモンズ世話人であるお茶の水女子大学教育開発センター半田智久教授による「教学比較IRコモンズ【ALCS学修行動調査】を終えて」(FD・SD研修会)を12月に開催し、学内での教学IRの理解を推進した。今年度は「大学院の教育と研究に関する調査」(4年ごと)や「学生と授業改善について考えるアンケート」(前期・後期)に協力した。また、昨年同様、DP達成度や本学への満足度について改善等の検証の資料の一つとして「卒業時アンケート」を実施した。</p> <p>今後は、教学比較IRコモンズ【ALCS学修行動調査】に加えて、学内事務IR検討チームの活動や「卒業時アンケート」の実施、授業評価等への協力により、多角的な学内IR活動を推進していく。</p>
内部質保証に関するプロセス	<p>P：大学改革に有益な教学IRの活用・分析方法を策定する 内部質保証システムに寄与するIR活動として、2015年度より調整を進めていたお茶の水女子大学を拠点とした「教学比較IRコモンズ」への参加について、9月に覚書を取り交わし、学修行動調査の教学IRとしての活用・分析方法について検討した。</p> <p>D：教学IRについての情報収集、講演会の開催、各種データの作成等を実行する 各種研修等へ参加、また、他大学との情報交換を行い、学園活動評価・改革計画室の教学IRについての理解を進めた。また、「教学比較IRコモンズ【ALCS学修行動調査】を終えて」をFD・SD研修会として12月に開催した。教学比較IRコモンズの学修行動調査については、11月に学生への調査を実施した。また、「大学院の教育と研究に関する調査」や「学生と授業改善について考えるアンケート」(前期・後期)のデータ作成に協力した。学園活動評価・改革計画室で毎年実施している「卒業時アンケート」も通学課程全学科及び通信教育課程の協力により実施し、データの作成を行った。</p> <p>C：教学IRコモンズからの学修行動調査のデータ及び他のIRデータの分析・検証を行う 教学比較IRコモンズ学修行動調査のデータについては、参加初年度のため、3月17日実施の参加大学による内部報告会に向けて、本学学生のデータの作成・分析を実施した。また、「卒業時アンケート」については、JASMINE-Naviを利用して、学生へのフィードバックを行った。昨年度末に実施した「学生ヒアリング」の報告書についてとりまとめ、各学部長及び学科長に配付した。</p> <p>A：検証結果より次年度に向けての改善点を確認し、教学IR事業に向けての計画を立案する 教学比較IRコモンズ【ALCS学修行動調査】については、内部報告会での情報を踏まえ、ベンチマークを行い、本学学生の学修行動について学内で共有できるようにする。また、学生ヒアリングを実施するなど、量的データにとどまらない分析を行うよう検討する。「学内事務IR検討チーム」において、学生支援を目的としたIR活動について調整を進める。「卒業時アンケート」については、DPの見直し後、アンケート内容の見直しを行う。</p>
到達目標5	自己点検・評価報告書を公開する
対応する中・長期計画の項目	<p>6. 計画推進等の体制 (4) 情報の公表による説明責任遂行</p>
2015年度の到達目標	
今年度の達成状況	<p>A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)</p>
点検と今後の展望	<p>2015年度自己点検・評価報告書として、5月20日に本学HP及び学園活動評価・改革計画室HP(イントラ)に掲載し、公表した。</p>
内部質保証に関するプロセス	<p>P：「日本女子大学自己点検・評価規則」に則り、自己点検・評価報告書の内容及び公開の方針を策定する 「2015年度自己点検・評価報告書」について、昨年度末に各部局から自己点検教学委員会、自己点検法人委員会及び自己点検・評価委員会に提出された到達目標点検シートを基に各委員会でとりまとめを行い、第1回自己点検・評価委員会において公開の方針について確認された。</p> <p>D：各機関から提出された自己点検・評価について、自己点検教学委員会及び自己点検法人委員会からの報告を受け、自己点検・評価委員会の承認後、学内外に公表する 「2015年度自己点検・評価報告書」について、前述のとおり各委員会でとりまとめ、点検後、第1回自己点検・評価委員会において報告書として承認されたので、大学HP及び学園活動評価・改革計画室HP(イントラ)で公表した。</p> <p>C：公表された自己点検・評価報告書が、本学の教育研究の現状を社会やステークホルダーに対する説明責任として有効に活用されていることを検証する 自己点検・評価報告書を掲載している大学HPの「大学案内 > 点検・評価への取り組み」への今年度アクセス数(ページビュー)は1,165件(2017年2月23日現在)である。なお、公表事項について意見等はなかった。</p> <p>A：前年度の自己点検・評価報告書が次年度の目標策定に有効に活用され、本学の教育研究の改善・向上に役立てられるよう働きかける 今年度の各部局の到達目標策定及び点検の際には、より有効な目標や実施方法、点検・評価の方法等を検討することに2015年度自己点検・評価報告書を役立ててもらえるよう案内を行った。また、複数年の自己点検・評価報告書を掲載することにより、継続した情報共有と検討を行えるようにしていく。</p>

Ⅲ 附属機関

1. 内部質保証に関するプロセス

※内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスを可視化。
 ※すべての到達目標に同じプロセスを用いている場合は、以下の枠内に記載してください。

(各到達目標に個別に記載)

内部質保証：PDCAサイクル等の方法を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育・学習その他のサービスが一定水準にあることを大学自らの責任で説明・証明していく学内の恒常的・継続的プロセス

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	今後の大学図書館の在り方を検討し、キャンパス構想のもとで図書館新設の計画を進め、キャンパス一体化に向けた準備を行う。
対応する中・長期計画の項目	<p>1. Vision120に向けての将来計画</p> <p>1-3 キャンパス計画</p> <p>目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実</p> <p>(1) 学生の主体的学びを涵養する教育研究環境の整備</p> <p>①目白キャンパスでの教育研究環境整備</p> <p>②西生田キャンパスの新たな活用法を検討</p> <p>(5) 他分野交流の展開を実現する環境提供(学生、教員、職員、分野を超えた相互横断的コミュニティの形成)</p> <p>①目白キャンパス整備</p> <p>3. 一貫教育、生涯教育計画</p> <p>一生を支える生涯教育</p> <p>(2) 地域・社会との連携体制</p> <p>③キャンパス一体化後の連携体制についての検討</p>
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 学修支援部会のもとに設置された図書館WGにおいて、新図書館ならびにキャンパス統合後の西生田図書館の運営や蔵書移転・統合の計画、キャンパス構想における「学生滞在スペース」に関する要望をとりまとめ、学修支援部会を通して学園総合計画委員会に提出した。 図書館総合計画に関する会議(図書館長・図書館職員)を23回(2月28日現在)開催し、新図書館、キャンパス統合後の西生田図書館、蔵書の移転・統合等について検討を行い、以下のとおり意見等を提出した。 <ul style="list-style-type: none"> キャンパス構想基本設計案(学内説明会)への意見：4月 キャンパス構想基本設計案(学内説明会)質疑への回答(案)への意見：5月 新図書館図面案への意見：4月・6月・7月・10月・11月・12月・2月 西生田保存図書館案(図面)への意見：8月 図書館棟事務スペースに関する質疑への回答：10月 新図書館、キャンパス統合後の西生田図書館、蔵書移転・統合等について検討を継続し、具体化を図る。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：今後の大学図書館の在り方をふまえ、学修支援部会・図書館WG、図書館総合計画に関する会議において計画策定。建築設計事務所から提示される新図書館図面案を検証。</p> <p>D：各部会・WGのもとで到達目標の進展。</p> <p>C：学園総合計画委員会、各部会、建築設計事務所等からのフィードバック。</p> <p>A：フィードバックを受けて計画を更新。</p>
到達目標 2	学修(学習)支援機能向上のため、目白に続き西生田にラーニング・スペースを新設して両図書館での活用をめざすとともに、図書館主催の情報検索講習会、教員からの依頼による授業時間内ガイダンスの充実を図る。
対応する中・長期計画の項目	<p>2. 大学・大学院の教育研究計画</p> <p>(4) 学生支援(学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など)の充実</p> <p>①学生が自発的に学習する支援体制の検討</p>

今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャンパス構想におけるラーニング・コモンズの先行検証の場として、目白に続き西生田図書館に小規模なラーニング・スペースを新設した(2016年6月21日)。入室者数は目白3,613名、西生田227名(2月20日現在)。学部3・4年生、大学院生が在席して学修支援を行うラーニング・サポーターは、目白では全ての学科または専攻から出揃い20名が学修相談を受けている。西生田では11月から2名のサポーターによる相談受付を開始し、2月からは新規登録の2名を加え4名体制で学修相談を受けている。次年度は、年度当初より学科を通じた広報を行うなど入学時からの利用を促し、さらなる利用拡大を図る。 ・ 図書館主催の講習会実施状況は、目白では「資料の探し方講習会」を11回実施し参加者は29名(2015年度31回114名、前年度比20回85名減)であった。2015年度に続き1月末までと実施期間を長く設定したが、回数・人数とも減少した。減少の理由は、事前に講習内容の希望を確認し、専門分野に絞られた内容であった場合には、授業時間内のガイダンスの方へ案内したということ、前年度と比べて前期の早いうちに十分な広報ができなかったことが上げられる。 西生田では図書館主催の「資料検索講習会」は実施しなかったが、後述の教員からの依頼による授業時間内のガイダンスは1年生が対象のクラスが多く、その中で「資料検索講習会」の内容を含んだ基本的な検索講習を実施した。目白・西生田とも、日常より参考カウンターにおいて利用者が必要とする文献や情報を探し出せるよう個別対応で支援を行っている。図書館主催の講習会について、次年度は、受講者アンケートを元にニーズを把握し、2015年度のように適切な時期に積極的な広報を行い参加率の向上を図る。 ・ 教員からの依頼による授業時間内のガイダンス実施状況は、目白：児童5回111名、食物1回5名、被服1回2名、英文16回202名、史学2回89名、その他1回16名、計26回425名参加、西生田：現代社会2回35名、社会福祉9回126名、教育5回89名、心理1回9名、文化1回6名、その他(留学生)1回2名、計19回267名参加となっており、実績が次の依頼につながっている。今後とも、教員との打合せや学科との連携を密に行い、教員の意図・授業内容に沿った効果的なガイダンスを実施する。
内部質保証に関するプロセス	<p>P：ラーニング・スペースについては、学修支援部会事務局の学務部・図書館事務部にて計画策定。図書館主催の講習会は、図書館課・西生田図書館課のサービス部門にて計画策定。授業内ガイダンスは、教員からの依頼を受け図書館課・西生田図書館課の参考係が教員との打合せを通して計画策定。</p> <p>D：到達目標の実施。</p> <p>C：ラーニング・スペースについては、利用者アンケート結果、ラーニング・サポーターからの意見、運営状況報告を学修支援部会に報告・協議。図書館主催の講習会は受講者アンケート結果を分析。授業内のガイダンスは教員からのフィードバックや受講者の反応。図書館ホームページ・学事報告・図書館だよりにて実績報告。</p> <p>A：上記フィードバックを受けて、各担当部門で改善・更新計画を策定・実施。</p>
到達目標3	学術情報リポジトリ運用指針を周知するとともに諸課題への対応を行い、登録件数増加を目指し、本学リポジトリの充実を図る
対応する中・長期計画の項目	<p>3. 一貫教育、生涯教育計画 「自学自動」「自念自動」を実践する女子教育</p> <p>(4) リーダーシップ・独創性・協心力を発揮しうる女性の資質をのばす教育活動、研究活動、社会貢献活動</p> <p>③研究の成果の学園内外への発信</p>
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2014年4月に一般公開を開始した本学リポジトリは紀要等の登録の希望が増え、登録アイテム数は2015年度末との比較で約20%近く増加、ダウンロード回数は倍増した。文部科学省「学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)」に、研究のエビデンスとなるデータの公開基盤としてリポジトリを活用すべきとの記述があり、オープンアクセスリポジトリ推進協会も発足した。本学リポジトリにおいてもこれらの流れに対応していく。

内部質保証に関する プロセス	P：図書館内リポジトリ担当者、図書館内会議、図書館運営委員会にて計画を策定。 D：到達目標の実施。 C：教授会、図書館運営委員会、コンテンツ提供者、リポジトリ利用者からのフィードバック。学園ニュース・図書館だよりに報告掲載。 A：文部科学省等の方向性、上記フィードバックをふまえ、次期改善計画を策定・実施。
-------------------	--

1. 内部質保証に関するプロセス

P：規程集による規程に基づき策定された中・長期計画に基づき、当該年度の事業計画を策定、実施計画に落とし込む→運営委員会による承認
D：実施計画に基づき実施する（展示・出版・その他）
C：結果報告→運営委員会にて検証
A：検証結果を基に改善計画を策定→運営委員会で検討

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	展示を通して本学の歴史や教育理念を伝える。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (7) 学園アイデンティティの確立
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	常設展示および年間4本の企画展示のすべてにおいて、本学の歴史や教育理念、また卒業生の活躍を伝えたという点で達成したといえる。さらに前年度のドラマの影響により成瀬仁蔵に対する関心が学内外で高まったことを受け、成瀬および本学の歴史に関する正確な情報発信に積極的に取り組んだ。これにより新たな成瀬研究の可能性が生まれるとともに、卒業後母校から遠ざかっていた卒業生やその家族の回帰がみられた。当面この路線を維持していくことが適当と思われる。

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標 2	第1に創立者の記念館としては、昨年度に引き続き成瀬仁蔵関連書簡集の編纂を進める。刊行は成瀬没後100年にあたる2019年を予定している。
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	2019年(2018年度末)刊行予定の書簡集(第1巻)の翻刻はほぼ完了し、点検および編集作業に取り掛かっている。引き続き残りの書簡の翻刻を進めるとともに刊行の具体的な準備を行う。
内部質保証に関するプロセス	P：2019年3月4日を発行日とする日付入りの計画書を作成 D：計画書に従って実施 C：年度末および次の作業段階に移る際に、計画書通りに進行しているかをチェック A：計画書の修正
到達目標 3	第2に学園全体の博物館として、今年度は食物学科の協力を得て特別展示「国際人教育の原点―伝統の調理実習」を、また泉フロートガーデンに焦点を当てた「庭を創る・庭を撮る」を開催する。
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	予定どおり特別展示を実施した
到達目標 4	第3に大学アーカイブズとして、2021年の成瀬記念館収蔵資料の全面公開をめざし準備を進める。そのためにはシステムの構築と資料の保管場所・閲覧スペースの確保が必須であることを学内に訴えていくとともに、学園の刊行物のWeb公開をめざしていく。
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ <input checked="" type="checkbox"/> C (内容の見直し)
点検と今後の展望	資料の全面公開に必要な資料整理・保管場所および閲覧スペースとして予定していた旧女子教育研究所部分が返還されないことが決定的となり、場所の確保が困難となったため、資料の全面公開は中止。今後はWeb公開等別の方法を模索する。

1. 内部質保証に関するプロセス

P：「日本女子大学総合研究所研究内規」
D：「日本女子大学総合研究所研究内規」に沿各研究課題の研究員の活動。
C： 研究内容の研究経過報告書、研究発表会における口頭発表、『紀要』、『ニュース』における発表による成果の確認及び点検。
A： 運営に関する運営委員会による改善に向けての検討。

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	日本女子大学の学園構成員が互いに協力し合う研究の拠点となるよう、幅広く研究員を募集する。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (6) 特色ある一貫教育の実現
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	学園の幅広い教職員からの応募があり、幅広い学園構成員構成員が協力しながら研究することができた。
到達目標 2	教員の研究内容によって社会に貢献するため、刊行助成制度への応募を奨励する。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実 (3) 地域連携・社会貢献型教育研究の促進
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	刊行助成への応募が複数あり、刊行助成のことが幅広く認知されていることが判った。また、研究課題の中に、地域連携により、社会貢献を目指すものがあり、研究員たちは活発に活動している。アジア（ラオス）において社会貢献を実施している研究課題グループもある。

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標 3	「日本女子大学総合研究所 研究内規」の第2条(1)、(2)にあるとおり、日本女子大学の特性についての研究を奨励し、その研究内容を口頭発表、論文発表してもらうことによって、学園構成員及び社会の日本女子大学について理解を深める
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	西生田キャンパスの森について、日本女子大学の卒業生の制組織桜楓会の社会貢献についてなど、日本女子大学ならではの研究が活発に行われている。これらを発表することによって、学園の構成員及び社会の日本女子大学への理解を深めることに役立てることができた。

1. 内部質保証に関するプロセス

P：所内会議（毎月）、運営委員会、プログラム委員会等で研究所の業務・運営について話し合い、方針を決定。
 D：研究員、事務職員が連携して業務を行う。
 C：業務日誌、メール等所内で情報を共有、所長にその都度進捗状況を報告、確認。
 A：問題が明らかになったら、随時改善、また、所内会議（毎月）で業務内容を点検して、改善する。

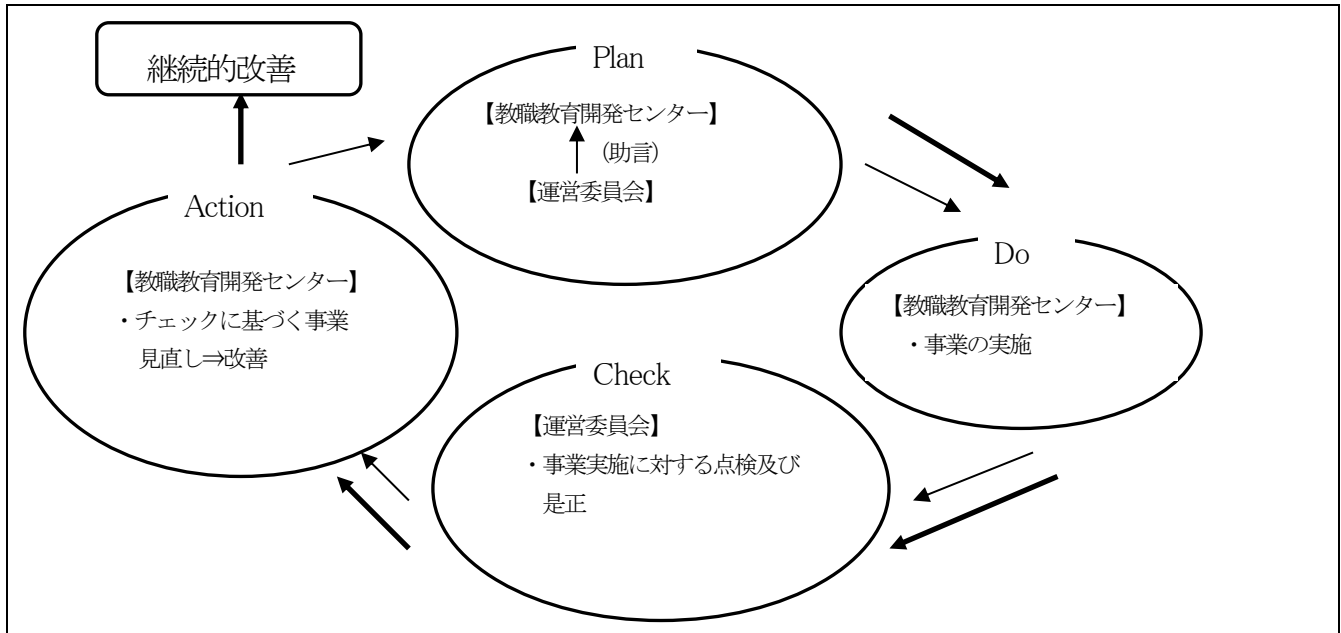
2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	キャリア教育の授業において講師及び参考図書の推薦。
対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 女性の活躍を支援するキャリア教育 (2) 女性の主体的な生き方を実現するためのキャリア教育 ②現代女性とキャリア専攻及びキャリア女性副専攻の科目の検討
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	教特の講師・参考図書推薦は例年通り実施、来年度も引き続き実施する。
到達目標 2	社会で活躍しうる女性の資質をのばす。
対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 「自学自動」「自念自動」を実践する女子教育 (4) リーダーシップ・独創性・協心力を発揮しうる女性の資質をのばす教育活動、研究活動、社会貢献活動
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	キャリア・ママとの共同研究で「女性起業家の実態に関する研究」を行い、女性起業家の現状と問題点を明らかにする。研究会、シンポジウムを通して、社会で働く女性がより活躍するために必要なことや問題点を様々な角度から探る。来年度も引き続き実施する。

3. その他（中・長期計画に該当項目のない到達目標）

到達目標 3	卒業生のネットワーク作り。
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	桜楓会と共催でホームカミングデーを実施。また、キャリア連携専攻委員会と連携してキャリア教育のゲストスピーカーの講師の先生方と学部を超えた卒業生のネットワーク作りを構築。来年度も引き続き実施する。
到達目標 4	他大学の女性就業支援との連携。
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	東京女子大学との共催による働く女性のためのネットワーク作りを実施。来年度も引き続き実施する。
到達目標 5	調査・データベースの拡充。
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	中小企業の経営者へヒアリングを実施。 データベースは社会調査の書誌情報を継続して入力。尾中文哉教授と「近現代日本における女性とキャリアに関する社会調査データアーカイブ構築にもとづく比較社会学的研究」を実施。来年度引き続き実施する。

1. 内部質保証に関するプロセス



2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	女性教員養成に長い歴史と実績をもつ本学の長を踏まえて、教職に就いている現職卒業生を支援する。そのために、今年度も引き続き「教員免許状更新講習」及び「ワークショップ」を実施し、メールマガジンを発行する。中でも「更新講習」においては、制度改正に伴い「選択必修領域講習」を新たに開設し、現職卒業生のブラッシュアップに貢献する。
対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1) キャリア開発とリカレント教育課程
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	<p>○当初の計画通り、以下の事業を実施し、上記目標を達成した。</p> <p>(1) 教員免許状更新講習：2016年8月16日(火)～20日(土)、必修領域講習及び選択必修領域講習、選択領域講習を実施した。受講者はのべ603名で、うち卒業生は262名。法改正により今年度から選択必修領域講習を新設。講習数全体を増やすことで、現職卒業生のブラッシュアップに貢献した。</p> <p>(2) ワークショップ：①教職員のための教育法規2016 学校教育と合理的配慮—障害者差別解消法を受けて—(2016年6月25日(土))、②小学校教師のための英語指導講座(2016年10月15日(土))を実施した。いずれのテーマも、学校現場において喫緊の課題である。</p> <p>(3) メールマガジン：卒業生ネットワーク「カモミールnet」登録者約760名に月1回配信。再就職を希望する卒業生に対する「就職情報」の随時配信も継続している。</p> <p>【今後の展望】</p> <p>○免許状更新講習は講習数を増やすことで、現職卒業生のニーズに応えることはできたが、運営面での課題も明らかになったことから、今後は量的拡大より質的向上を優先したい。</p> <p>○ワークショップは卒業生の参加を促そうと、上記②を「目白祭」と同日に開催したが、残念ながら期待したほどの効果はなかった。多忙な現職教員の参加促進策は継続的な課題である。</p> <p>○メールマガジンは毎回配信後、数人ではあるが再就職情報やイベント情報配信の希望者がいる。地道な事業ではあるが、継続していくことが重要と考える。</p>

到達目標2	上述の特長を踏まえて、教職を目指している学部生や院生を支援する。そのために、教員採用試験対策講座及び専門家による日常的な指導・助言の内容を充実させる。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ②教職課程カリキュラム及び運営体制の見直し
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	○当初の計画通り以下の事業を実施して、目標を達成した。 (1) 教員採用試験対策講座：①教員採用試験対策講座（2016年2月27日（土）～4月16日（土）計8回）、②2次試験直前対策講座（2016年8月4日（木）、6日（土）、18日（木）、19日（金）計4回）、③教員採用試験セミナー（6月2日（木））、④教職基礎ゼミ（月2～3回、木曜日午後） (2) 日常的な指導・助言：教職志望の学生に対して、センター専任教員、同非常勤職員（元公立学校長等）、児童学科特任教授が教員採用試験及び就職に関する指導・助言を日常的に行った。センターの存在が学生にも認知され、来室する学生も増えてきた。 【今後の展望】 ○教職志望の学部生・院生への支援をさらに充実させるため、受験自治体の多様化や私立学校教員希望者に対応した情報収集等を行い支援策を考える。 ○日常的な指導・助言を充実させるために、人的配置のさらなる充実を求める。

3. その他（中・長期計画に該当項目のない到達目標）

到達目標3	「教職教育開発センター 年報」を刊行する。
今年度の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A（達成） ・ B（継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	○「教職教育開発センター年報 第3号」は2017年3月刊行を目指し、編集作業を進行しており、上記目標は達成される見込みである。 【今後の展望】 来年度も同様にセンター年報を刊行する予定である。

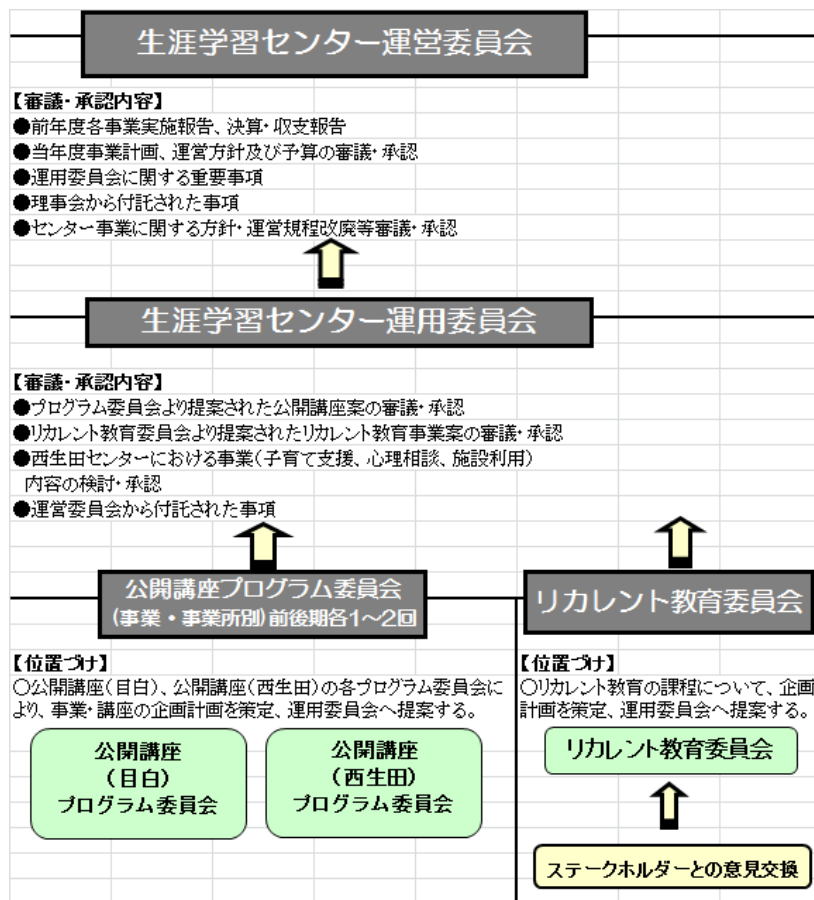
1. 内部質保証に関するプロセス

【生涯学習センターの設置目的】

本センターは、日本女子大学及び附属各校・園の伝統と特質を生かしつつ、本学の知的財産・教育的資産を社会に開放し、学内外の生涯学習活動の連携を図り、推進することを目的とする。

【設置目的実現のためのPDCA】

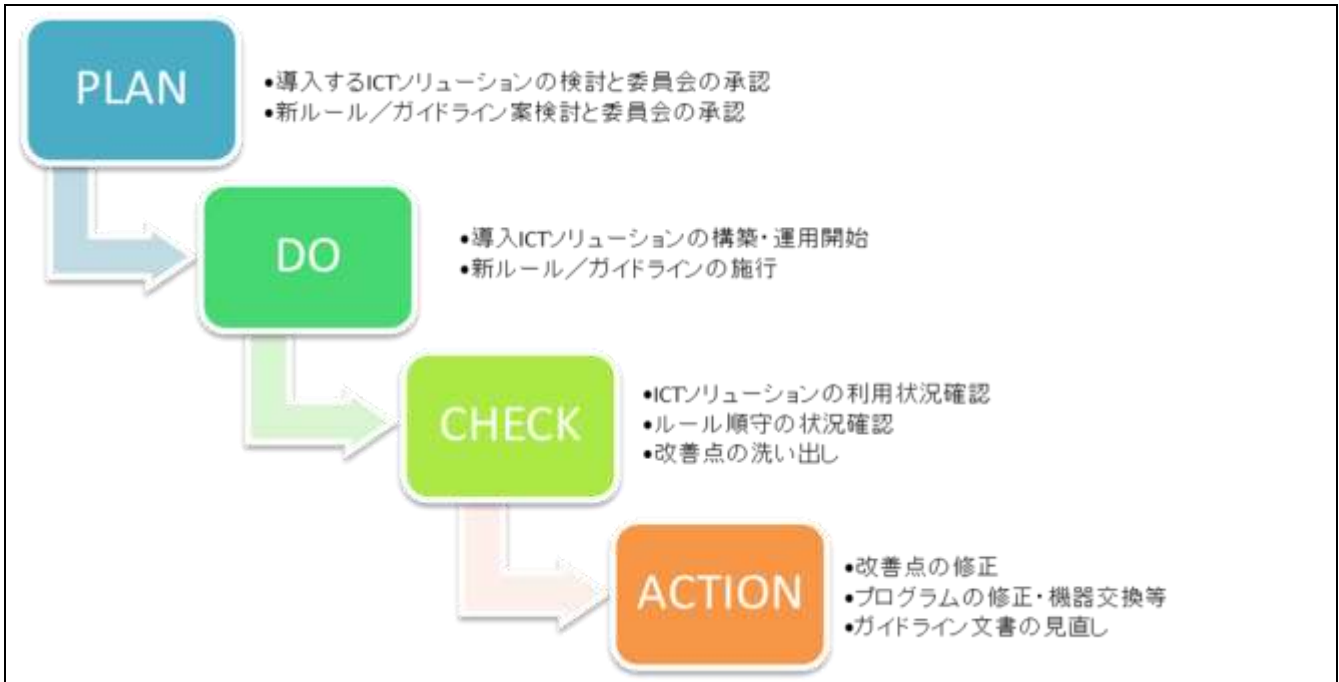
- P：・生涯学習センター運用委員会および生涯学習センター運営委員会における当年度事業計画、運営方針および予算の審議
- ・上記計画に基づき、プログラム委員会において公開講座の企画計画を策定
 - ・上記計画に基づき、リカレント教育委員会において企画計画を策定
- D：・「日本女子大学生涯学習センター規則」、「リカレント教育課程要項」に沿った運営
- C：・公開講座については、受講生数などの実績や受講生アンケートなどを実施。キャリア支援講座の資格試験合格率や、「毎日学ぶ英会話」の受講継続率などの検討。
- ・リカレント教育課程については、受講生アンケート、合同会社説明会参加企業アンケート、授業担当講師との日常的な情報交換や講師懇話会での議論の実施。
 - ・生涯学習センター運用委員会および生涯学習センター運営委員会において事業報告や収支報告を行う。
- A：・プログラム委員会および生涯学習センター運用委員会において、改善提案を検討、審議する。
- ・リカレント教育委員会において、改善提案を検討、審議する。



2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	(地域連携) 文京区及び川崎市との連携を強化し、多様な形態の講座や事業の提供を通じて大学の研究成果を地域社会に還元する
対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	・文京区アカデミア講座への講座提供を通じ、本学の研究成果を地域の方々に還元した。2016年度は文京区からの要請を受け「外国人おもてなし英会話講座」を開講し、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けたボランティア育成事業への連携を行った。 ・川崎市教育委員会連携講座へ西生田キャンパスの自然環境を生かした子ども向け講座や、附属中学教員による子ども向け講座を提供し、地域貢献につとめた。
到達目標 2	(生涯教育) 生涯学習センター、リカレント教育課程において、企業との連携によるより実践的な講座を開講することにより新たな学習機会を提供し、リカレント教育課程の再就職支援の強化を行う
対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1) キャリア開発とリカレント教育課程
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	一般社団法人中高年齢者雇用福祉協会 (JADA) との連携による「キャリアマネジメント」開講、合同会社西友との共催による「セルフリーダーシップ・プログラム」開催、大同生命保険株式会社寄付講座による「女性活躍」開講等により、多彩な講師陣によるアクティブ・ラーニングを実現し、受講生は今後のキャリアの可能性について具体的にイメージし、再就職活動への準備を行うことができた。今後は再就職に向けたインターンシッププログラムの更なる開拓をすすめる予定である。
到達目標 3	(学生への修学支援) 在学生向けに正課外として開講しているキャリア支援講座(資格取得・語学・就職活動支援)において、講座の見直しや学習奨励を目的とした受講料優遇等を実施することにより、資格取得や語学力向上といった学生支援につなげる
対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1) キャリア開発とリカレント教育課程
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	「旅行業務取扱管理者対策講座」について「総合旅行業務取扱管理者」の全国平均合格率約12%のところ、本学合格率は約78%と昨年度を大幅に上回る高い合格率を上げた。また「TOEIC®スタート講座」においても出席率と成績による受講料返還制度を実施し、基準点(550点)を超えた者が昨年度の5名から7名に増加した。今後は更なる学生支援のための講座の検討や見直しを行う予定である。
到達目標 4	(学園関連組織との連携) 各学部・学科、桜楓会、WILPF、RIWACなどの学園関連組織等との連携により講座や事業を行い、生涯学習や働く女性の支援事業を進める
対応する中・長期計画の項目	3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	桜楓会、WILPFとの連携講座を実施し、例年に引き続き女性の働き方に関わるテーマでの開講により、女子総合大学としての本学ならではの公開講演会を開催することが出来た。また、後期には日本文学科との共催として「メディア文化論」を開講し、研究会型の講座により、キャリア支援講座の新たな可能性を探ることが出来た。

1. 内部質保証に関するプロセス



2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	ICTを利用し、学生が主体的に学習する環境を整備する。 <ul style="list-style-type: none"> • コンピュータ演習室の設備更改の実施、ならびにキャンパス構想におけるコンピュータ演習室の必要量に関する方針策定。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 教育改革・教育研究環境の充実を実現するためのキャンパス再整備
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	<p>コンピュータ演習室、学習管理システムのシステムをはじめ、システム更改を進めた。</p> <p>①コンピュータ演習室の設備更改 授業支援システム かねてより計画した通り、キャンパス統合時に環境更新の時期を同期させるために1年遅らせていた設備の更改を行うため入札により調達業者を選定。更新作業は、年度内に完了させる。授業支援ツールについて候補となる複数のシステムの説明会を行い、教員等の希望を入れた選定を行った。基本的なシステム構成は継承しつつ、サーバ、クライアント等の最新化をはかり、利用環境の質を向上させる。</p> <p>②学習管理システム (LMS) のシステム入れ替え 現行システムの販売体制の変更により、次年度以降の保守が継続不能と判明。急きょシステム更改が必要となった。計画外の対応ではあったが、メディアセンター運用委員会による候補システムのレビューを踏まえて選定した。年度内に更改を完了する予定。</p> <p>③Microsoft Office包括ライセンス契約 コンピュータ演習室の更改にあわせ、Microsoftの包括ライセンス契約を進めた。演習室のパソコンへの導入だけでなく、学内および教員、学生の個人所有のパソコンでも利用可能となるため、学内に限らず学修環境の提供に資することができる。</p> <p>キャンパス構想に向けた検討 今後の検討の本格化に向けた情報の整理を開始した。キャンパス統合後のコンピュータ演習室は現状よりも容量、数ともに大きくする必要性についてキャンパス構想部会にて議論を行った。</p>

到達目標2	個人情報の扱いに関するガイドラインを、前回制定の後の状況変化を踏まえ更新する。
対応する中・長期計画の項目	4. 管理運営 (3) 危機管理体制の明確化
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	社会情勢としてウイルスメールの被害が大きい状況にある。特に最近では標的型メールの被害が多くなりつつある。本学においても、用件を伝えるように偽装されたメールが確認されはじめていることから、注意喚起を進めた。覚えのないメールアドレスからのメールや、送信者の連絡先が無いようなメールには注意すること。また、そのようなメールに添付されたファイルやURLへのアクセスは行わないことを周知した。 現在、ガイドライン案を作成中で次年度の情報セキュリティ委員会で委員の方々から承認をいただく予定である。

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標3	学内ネットワーク環境整備(無線LAN設備の増強等)。
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	コンピュータ演習室で無線LAN環境及び、iPad・電子黒板が利用できるように整備した。授業の中でプレゼンの練習や教職教育のために利用がなされた。 その他、目白地区では図書館4階の閲覧室・グループ研究室・泉ラーニングスペース・樟溪館クラブスペース、西生田地区では図書館全フロア、10番教室で無線LAN環境が利用できるように整備を行い、学生の利用も徐々に増えつつある状況である。 今後も学生や教員からのニーズを分析しながら、大教室を中心に無線LAN環境を拡大できるよう検討する。
到達目標4	コンピュータ演習室における紙資源利用の削減の努力。
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	コンピュータ演習室におけるプリンタポイントの設定について見直しを行った。今回は学生の利便性の向上と、対応にかかる事務負担の軽減、および不要なカラー印刷の抑制をねらいとして設定値の変更を行う。申請不要で印刷できる枚数は増加するため、不要な印刷が増えないか運用状況をみて継続的に検討する。 その他、紙冊子として配布していた「コンピュータ演習室利用の手引き」(ページ総数50P)と「教員用情報環境利用手引書」(ページ総数27P)はWeb掲示とし紙媒体をなくした。 Web掲示としたことへのクレームはなかったため、引き続き継続としたい。

1. 内部質保証に関するプロセス

P：望ましい人格的成長および精神的健康のための有効な支援方法の策定⇒D
D：支援方法のガイドラインに基づく支援の実施⇒C
C：対象学生の精神的健康、人格的安定、適応状況のアセスメント⇒A
A：アセスメント結果から支援方法の見直しを行い、改善すべき点を策定する⇒P

2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	附属校園および大学の校種間連携に、心理的支援という側面から寄与する。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	カウンセリングセンター内での幼～大学の校種間連携システムが機能し始めている。日ごろからのコミュニケーションを心がけ、連携から協働へと発展させていくことが新たな課題である。
到達目標 2	カウンセリング活動を通じて、幼稚園から大学、大学院にわたる、精神的健康の維持、増進および人格形成に貢献する。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (1) 「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の教育理念を継承する自校教育
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	幼稚園、小学校では、発達段階を考慮し、親子の関係性にも気を配りながらカウンセリングができるようになってきており、一定の効果を挙げることができたが、さらなる活動の広がりが今後の課題である。大学においては、カウンセラーの定年制への移行の効果もあり、各カウンセラーの持ち味を生かしながら互いに協働しあってカウンセリング活動の効果を挙げることができた。来年度に向けて、学部学科の特性により配慮した方法を模索することが新たな課題である。
到達目標 3	グループセミナー活動、カウンセリング活動、講義などを通して、すべての学生の心理的成長を促す。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	今年度も、グループへの参加申し込み数は、事前予約でいっぱいになるセミナーもあり、目標はおおむね達成できた。しかし、より幅広い学生の参加を促すために、新たなセミナーを計画し、内容の充実を図ることが新たな課題である。
到達目標 4	保健管理センター、教務・資格課、学生課、国際交流課、キャリア支援課、学科等の連携をスムーズにし、キャンパス内の学生支援ネットワークを構築する。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)

点検と今後の展望	学内の学生支援に関わる部署との連携は、必要に応じて積極的に取り組まれてきた。より有効な連携の在り方を今後も模索していく。
到達目標5	キャンパス統合にむけて、学生の多様なニーズに応えられ、利用しやすい環境を検討する。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	キャンパス統合後の設計図について、カウンセリングセンター内での話し合いを行い、それを基に、学園改革推進室および設計事務所との打ち合わせを繰り返した。他の学生支援ネットワーク関連の部署との打ち合わせも行った。引き続き検討を行っていく。
到達目標6	精神障害、発達障がい(疑いを含む)学生への支援体制を構築する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) 学生支援(学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など)の充実 ③障がいのある学生への学修支援体制整備
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	障害者差別解消法の施行が始まり、支援につなげる学生数は昨年よりもかなり多くなった。有効な支援の在り方は学生の個人の特性によって異なるため、よりよい支援体制の構築のために活動評価を生かし、より有効な支援体制を探りつつ活動を続けていく。

1. 内部質保証に関するプロセス

	プロセス	具体的な内容	結果
P	到達目標の策定	・2015年度運営委員会（2016年2月）にて2015年度事業評価をし、それをふまえて2016年度目標案の承認を受け目標を策定	・到達目標を策定した
D	到達目標に基づいた活動	・保健管理センターの活動・事業全般	・大きな遅滞・支障なく活動を実践した
C	到達目標に対する点検	・IR※に基づく評価 ※IR： 健康診断受診率・センター利用率・傷病傾向・健康イベント参加率・各種事例等	・IRに基づく分析結果・評価について、学校保健委員会（2016年6月）を中心に、適宜、合同会議（1～2回/月）、カウンセリングセンター情報交換会（1～2回/月）、学生相談窓口との懇談会（1回/4ヵ月）にて報告し共有をした。
A	点検結果を基にした改善方策の検討	・学校保健委員会（2016年6月）を中心に、適宜、合同会議（1～2回/月）、カウンセリングセンター情報交換会（1～2回/月）、学生相談窓口との懇談会（1回/4ヵ月）にて、課題・改善策を検討 ・2016年度運営委員会（2017年2月）にて改善策を含めた事業報告及び評価をする	・委員会や各種会合は予定通り開催され、改善策を検討した。 ・検討された改善策は即座に実務に反映できるものはした。

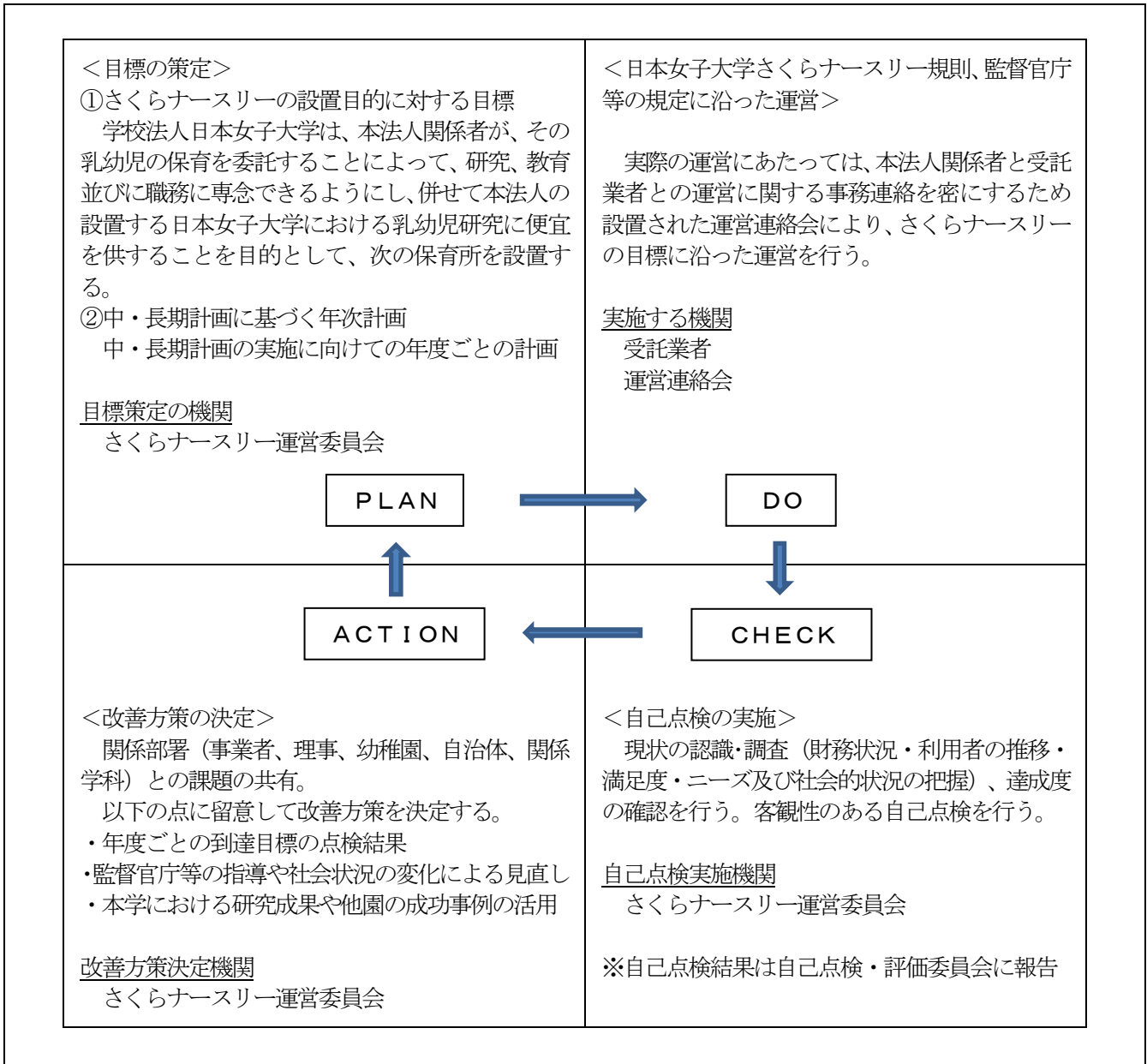
2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	大規模地震及び災害に備え、学生の応急手当に関する自助力の向上をめざす。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育 ①健康教育の充実
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	在学中に最低1度は学生全員がAEDに触れる体験をすることを目標に、教養特別講義1第2回教特1講義にて、AED学習教材を参加者全員に回覧した。あわせて、心肺蘇生やAED使用に関する動画を放映した。実施後の参加者へのアンケート結果では、過半数以上がAEDについて知識不足があることが判明したことから、この取り組みを継続し自助力の一層の向上をめざす。
到達目標 2	喫煙、不適切な飲酒、薬物乱用をはじめとする危険行動を、学生が回避できるためのライフスキルの向上をめざす。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3) 健全な心身の完成をめざす健康教育 ①健康教育の充実
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	調査により「喫煙している」「過度な飲酒をしている」と回答した学生について、呼び出し、状況確認と保健指導を実施した。しかし、来室が数例にとどまった。今後は、危険が高い対象に焦点をあてるだけでなく、教養特別講義1第2回教特1講義の内容について、危険行動の回避を含めたリスク管理に重点を置くよう大幅に見直すなどし、集団全体を危険の低い方向に導き危険因子の程度を下げる働きかけを試みる。

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標3	<p>教職員健康管理体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働安全衛生法改正にともなうストレスチェック制度の確実な導入 ・定期健康診断における受付及び胃部エックス線検査の円滑で安全な進行
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	<p>・ストレスチェック制度及び事後措置は円滑に実施された。しかし、受検率が約3割であったため、次年度は受検率の向上をめざす。</p> <p>・定期健康診断では、委託機関の変更・胃部エックス線検査の予約方式の変更などを行うことで、円滑で安全な進行が実践できた。受診者による事後アンケート結果では、約7割が満足・ほぼ満足と回答しており、この方式・体制の質の維持・向上してゆくことをめざす。</p>
到達目標4	<p>児童・生徒・学生の健康診断の確実な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全法施行規則の一部改正 (健康診断の技術的基準変更) に則し、児童・生徒については、一層、四肢の形態・発育並びに運動器機能に注意した健康診断を行う
今年度の達成状況	A (達成) ・ B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	各附属園・校の定期健康診断は、法に則して遅滞なく円滑に実施された。今年度新たに構築した方式・体制の質の維持・向上してゆくことをめざす。

1. 内部質保証に関するプロセス



2. 中・長期計画への対応

到達目標 1	学生・教員の教育・研究の場として機能するように保育現場と連携して検討する。
対応する中・長期計画の項目	2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証 ①保育士養成課程の設置
今年度の達成状況	A（達成） ・ B （継続） ・ C（内容の見直し）
点検と今後の展望	現状において、児童学科の研究室単位で学生の見学・実習が行われている。今年度は、児童学科から附属校生を対象とした春期セミナーへの実施協力依頼があり、学園の一貫教育にも位置付けられる新たな取り組みが行われた。今後も、保育士養成課程の設置にあわせて実習の場として活用できるようにするなど、引き続き連携体制を築いていく予定である。

到達目標2	事業所内保育所としての機能を損なうことのない社会貢献の可能性について検討する。
対応する中・長期計画の項目	1. Vision120に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実 (3) 地域連携・社会貢献型教育研究の促進 3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) 地域・社会との連携体制
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	国の制度改革により事業所内保育園でも認可が受けられるようになったことから、文京区と本学間でその適用について検討を行なったが、事業所の規模等がそぐわないことから計画は中断している。今後は、生涯教育や新しい地域・社会への貢献についても検討し、本学らしいあり方を明確にしつつ検討を継続する予定である。

3. その他 (中・長期計画に該当項目のない到達目標)

到達目標3	保護者や保育士の意見を聴取し、利用する乳幼児の特性に合った安全で豊かな保育環境の整備を行う。
今年度の達成状況	A (達成) ・ <input checked="" type="checkbox"/> B (継続) ・ C (内容の見直し)
点検と今後の展望	利用者の一定の満足は得られているが、保育士の交替が多いことなどへの不安の声もあるようである。今後も引き続き、保護者および保育士の両面からの意見を聴取し、検討を行っていく必要がある。